

(様式第10)

厚生労働大臣

殿

令和 4 年 10 月 1 日
番 岩医大病企第223 号
開設者名 学校法人岩手医科大学
理事長 小川 彰

岩手医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号
氏名	学校法人岩手医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

岩手医科大学附属病院

3 所在の場所

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号
電話 (019)613-7111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科								有
内科と組み合わせた診療科名等								
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科	
<input type="radio"/>	5神経内科		6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科		8代謝内科	
	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績								
・血液内科 : 血液・腫瘍内科 ・代謝内科 : 糖尿病・代謝内科、内分泌内科 ・感染症内科 : 呼吸器内科								

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
・内分泌外科:外科							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	児童精神科	3	臨床検査科	4	病理診断科	5	肝臓内科
6	心療内科	7	老年内科	8	緩和ケア内科	9	肝臓外科	10	気管食道外科
11	形成外科	12	頭頸部外科	13	美容外科	14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
68				932	1000

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	255	505	446.9
歯科医師	8	175	74.5
薬剤師	75	0	75
保健師	0	0	0
助産師	59	0	59
看護師	1184	0	1184
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	13	0	13

職種	員数
看護補助者	59
理学療法士	24
作業療法士	13
視能訓練士	1
義肢装具士	0
臨床工学士	37
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	59

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	63
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	16	
その他の技術員	58	
事務職員	185	
その他の職員	4	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	40	眼科専門医	11
外科専門医	46	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	10	放射線科専門医	10
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	19
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	18	救急科専門医	13
		合計	253

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小笠原 邦昭) 任命年月日 平成 30 年 4 月 1 日

医療安全関係の学内委員会への出席状況(2021年度出席回数)

- ・医療安全推進委員会 2021年4月から5回(全12回)
- ・総合医療安全対策会議 2021年4月から12回(全12回)
- ・監査委員会(医療安全) 2021年4月から2回(全2回)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	818.8 人	8.5 人	827.3 人
1日当たり平均外来患者数	625.5 人	42.6 人	668.0 人
1日当たり平均調剤数		1208.01	剤

必要医師数	133.62	人
必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	28	人
必要(准)看護師数	436	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1261.4 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	病床数	24床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 564.2 m ²		病床数	45	床	
	[移動式の場合] 台数		台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 147.2 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名				薬務室	
化学検査室	402.6 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析装置、全自動尿分析装置、総合血液学検査・自動塗抹標本作成装置、免疫発光測定装置、免疫統合自動分析装置 他		
細菌検査室	183.3 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備)	質量分析計、薬剤感受性試験装置、血液培養自動分析装置、全自動抗酸菌培養検査装置 他		
病理検査室	247.8 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備)	凍結組織切片作成装置、ホルマリン対策臓器撮影装置、自動ガラス封入・染色装置、システム生物顕微鏡 他		
病理解剖室	50 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備)	感染防止対策用解剖台、ラミナーフローユニット、プッシュプル型切り出し台、ホルマリン固定液作成装置 他		
研究室	15,148.30 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	研究用機器 他		
講義室	4305.8 m ²	鉄筋コンクリート	室数	21	室	収容定員 2848 人
図書室	1229 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4	室	蔵書数 99800 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.7	%	逆紹介率	133.9	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		5,184		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,933		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,830		人
	D: 初診の患者の数		8,906		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三木 保	守谷慶友病院病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
長谷川 頌	長谷川菜園法律事務所 代表		法律に関する識見を有する者	無	1
奥寺 高秋	元特別養護老人ホーム・日赤鷺鳴荘園長		医療を受ける者その他 医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0
テモゾロミド用量強化療法	0
先進医療の種類合計	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ロボット支援(ダヴィンチ)を用いた直腸がん手術(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	経皮的僧帽弁クリップ術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用い、高度僧帽弁閉鎖不全症の患者を経皮経カテーテル的に修復する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 子宮体がんに対する子宮悪性腫瘍手術をロボット支援下にて実施する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	System-i	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝動注療法でコントロールできない多結節性肝がんに対し、カテーテルを上腕動脈または大体動脈から挿入し、側孔を開けたカテーテルを腹部大動脈に留置。カテーテルの末端に約1cmのキャップを接続し、皮下に埋め込む。			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術において傍大動脈リンパ節郭清を腹腔鏡下で行う			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
扱い患者数の合計(人)	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	170		オクシビタル・ホーン症候群	
2	筋萎縮性側索硬化症	171		ウイルソン病	
3	脊髄性筋萎縮症	172		低ホスファターゼ症	
4	原発性側索硬化症	173		VATER症候群	
5	進行性核上性麻痺	174		那須・ハコラ病	
6	パーキンソン病	175		ウィーバー症候群	
7	大脳皮質基底核変性症	176		コフィン・ローリー症候群	
8	ハンチントン病	177		有馬症候群	
9	神経有棘赤血球症	178		モワット・ウイルソン症候群	
10	シャルコー・マリー・トウス病	179		ウィリアムズ症候群	
11	重症筋無力症	180		ATR-X症候群388	
12	先天性筋無力症候群	181		クルーゾン症候群389	
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	182		アペール症候群390	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	183		ファイファー症候群391	
15	封入体筋炎	184		アントレー・ビクスラー症候群392	
16	クロウ・深瀬症候群	185		コフィン・シリズ症候群393	
17	多系統萎縮症	186		ロスマンド・トムソン症候群394	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	187		歌舞伎症候群	
19	ライソゾーム病	188		多脾症候群	
20	副腎白質ジストロフィー	189		無脾症候群	
21	ミトコンドリア病	190		鰓耳腎症候群	
22	もやもや病	191		ウェルナー症候群	1
23	プリオン病	192		コケイン症候群	
24	亜急性硬化性全脳炎	193		プラダー・ウイリ症候群	
25	進行性多巣性白質脳症	194		ソス症候群	
26	HTLV-1関連脊髄症	195		ヌーナン症候群	
27	特発性基底核石灰化症	196		ヤング・シンプソン症候群	
28	全身性アミロイドーシス	197		1p36欠失症候群	
29	ウルリッヒ病	198		4p欠失症候群	
30	遠位型ミオパチー	199		5p欠失症候群	
31	ベスレムミオパチー	200		第14番染色体父親性ダイノミー症候群	
32	自己貪食空胞性ミオパチー	201		アンジェルマン症候群	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	202		スミス・マギニス症候群	
34	神経線維腫症	203		22q11.2欠失症候群	
35	天疱瘡	204		エマヌエル症候群	
36	表皮水疱症	205		脆弱X症候群関連疾患	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	206		脆弱X症候群	
38	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	207		総動脈幹遺残症	
39	中毒性表皮壊死症	208		修正大血管転位症	1
40	高安動脈炎	209		完全大血管転位症	2
41	巨細胞性動脈炎	210		単心室症	3
42	結節性多発動脈炎	211		左心低形成症候群	1
43	顕微鏡的多発血管炎	212		三尖弁閉鎖症	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	213		心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	
46	悪性関節リウマチ	7	215	ファロー四徴症	
47	パージャール病	2	216	両大血管右室起始症	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	217	エプスタイン病434	1
49	全身性エリテマトーデス	37	218	アルポート症候群435	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	21	219	ギャロウェイ・モワット症候群436	
51	全身性強皮症	13	220	急速進行性糸球体腎炎	8
52	混合性結合組織病	3	221	抗糸球体基底膜腎炎	1
53	シェーグレン症候群		222	一次性ネフローゼ症候群	30
54	成人スチル病	2	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	
55	再発性多発軟骨炎		224	紫斑病性腎炎	2
56	ベーチェット病	8	225	先天性腎性尿崩症	
57	特発性拡張型心筋症	13	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	
58	肥大型心筋症	1	227	オスラー病	
59	拘束型心筋症		228	閉塞性細気管支炎	
60	再生不良性貧血	2	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	
61	自己免疫性溶血性貧血		230	肺胞低換気症候群	
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		231	α1-アンチトリプシン欠乏症	
63	特発性血小板減少性紫斑病	8	232	カーニー複合	1
64	血栓性血小板減少性紫斑病	1	233	ウォルフラム症候群	5

4 指定難病についての診療

65	原発性免疫不全症候群	2	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	5
66	IgA 腎症	30	235	副甲状腺機能低下症	7
67	多発性嚢胞腎	7	236	偽性副甲状腺機能低下症	
68	黄色靭帯骨化症	3	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	
69	後縦靭帯骨化症	21	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	
70	広範脊柱管狭窄症		239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	
71	特発性大腿骨頭壊死症	6	240	フェニルケトン尿症	
72	下垂体性ADH分泌異常症		241	高チロシン血症1型	
73	下垂体性TSH分泌亢進症		242	高チロシン血症2型	
74	下垂体性PRL分泌亢進症		243	高チロシン血症3型	
75	クッシング病		244	メープルシロップ尿症	
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1	245	プロピオン酸血症	
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	246	メチルマロン酸血症	
78	下垂体前葉機能低下症	6	247	インゴ草酸血症	
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		248	グルコーストランスポーター1欠損症	
80	甲状腺ホルモン不応症		249	グルタル酸血症1型	
81	先天性副腎皮質酵素欠損症		250	グルタル酸血症2型	
82	先天性副腎低形成症		251	尿素サイクル異常症	
83	アジソン病	1	252	リジン尿性蛋白不耐症	1
84	サルコイドーシス	11	253	先天性葉酸吸収不全	
85	特発性間質性肺炎	8	254	ポルフィリン症	
86	肺動脈性肺高血圧症	8	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		256	筋型糖原病	
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4	257	肝型糖原病	
89	リンパ脈管筋腫症	2	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	
90	網膜色素変性症	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
91	バッド・キアリ症候群	2	260	シトステロール血症	
92	特発性門脈圧亢進症	1	261	タンジール病	
93	原発性胆汁性胆管炎	13	262	原発性高カイトミクロン血症	
94	原発性硬化性胆管炎	3	263	脳腫黄色腫症	
95	自己免疫性肝炎	10	264	無βリポタンパク血症	
96	クローン病	34	265	脂肪萎縮症	
97	潰瘍性大腸炎	29	266	家族性地中海熱	
98	好酸球性消化管疾患		267	高IgD症候群	
99	慢性特発性偽性腸閉塞症		268	中條・西村症候群	
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
101	腸管神経節細胞僅少症		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		271	強直性脊椎炎	1
103	CFC症候群		272	進行性骨化性線維異形成症	1
104	コステロ症候群		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
105	チャージ症候群		274	骨形成不全症	
106	クリオピリン関連周期熱症候群		275	タナトフォリック骨異形成症	
107	全身型若年性特発性関節炎		276	軟骨無形成症	2
108	TNF受容体関連周期性症候群		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	3
109	非典型溶血性尿毒症症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	4
110	ブラウ症候群		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	3
111	先天性ミオパチー		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
113	筋ジストロフィー	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		283	後天性赤芽球癆	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
116	アトピー性脊髄炎		285	ファンコニ貧血	
117	脊髄空洞症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
118	脊髄髄膜瘤		287	エプスタイン症候群	
119	アイザックス症候群		288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
120	遺伝性ジストニア		289	クロンカイト・カナダ症候群	
121	神経フェリチン症		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		292	総排泄腔外反症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		293	総排泄腔遺残	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
126	ペリー症候群		295	乳幼児肝巨大血管腫	
127	前頭側頭葉変性症	1	296	胆道閉鎖症	
128	ピッカーstaff脳幹脳炎		297	アラジール症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		298	遺伝性膀胱炎	
130	先天性無痛無汗症		299	嚢胞性線維症	
131	アレキサンダー病		300	IgG4関連疾患	
132	先天性核上性球麻痺		301	黄斑ジストロフィー	
133	メビウス症候群		302	レーベル遺伝性視神経症	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		303	アッシュヤー症候群	
135	アイカルディ症候群		304	若年発症型両側性感音難聴	
136	片側巨脳症		305	遅発性内リンパ水腫	
137	限局性皮質異形成		306	好酸球性副鼻腔炎	8
138	神経細胞移動異常症		307	カナバン病	
139	先天性大脳白質形成不全症		308	進行性白質脳症	
140	ドラベ症候群		309	進行性ミオクローヌスてんかん	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		310	先天異常症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		311	先天性三尖弁狭窄症	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		312	先天性僧帽弁狭窄症	
144	レノックス・ガスター症候群		313	先天性肺静脈狭窄症	
145	ウエスト症候群		314	左肺動脈右肺動脈起始症	
146	大田原症候群		315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	
147	早期ミオクロニー脳症		316	カルニチン回路異常症	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		317	三頭酵素欠損症	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		318	シトリン欠損症	
150	環状20番染色体症候群		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
151	ラスムッセン脳炎		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
152	PCDH19関連症候群		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		322	β-ケトチオラーゼ欠損症	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
155	ランドウ・クレフナー症候群		324	メチルグルタコン酸尿症	1
156	レット症候群		325	遺伝性自己炎症疾患	
157	スタージ・ウェーバー症候群		326	大理石骨病	
158	結節性硬化症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
159	色素性乾皮症		328	前眼部形成異常	
160	先天性魚鱗癬		329	無虹彩症	
161	家族性良性慢性天疱瘡		330	先天性気管狭窄症	
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2	331	特発性多中心性キャッスルマン病	
163	特発性後天性全身性無汗症	4	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
164	眼皮膚白皮症		333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	
165	肥厚性皮膚骨膜炎		334	脳クレアチン欠乏症候群	1
166	弾性線維性仮性黄色腫		335	ネフロン癆	
167	マルファン症候群		336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	
168	エーラス・ダンロス症候群		337	ホモシスチン尿症	
169	メンケス病		338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	71
合計患者数(人)	439

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1)	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟 10対1)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算2	・精神科急性期医師配置加算
・急性期看護補助体制加算	・排尿自立支援加算
・看護職員夜間配置加算	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料3
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科応急入院施設管理加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・精神病棟入院時医学管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・緩和ケア病棟入院料1
・感染対策向上加算1	・児童・思春期精神科入院医療管理料
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・糖尿病合併症管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・がん患者指導管理料イ	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・がん患者指導管理料ロ	・人工中耳植込術
・がん患者指導管理料ハ	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん患者指導管理料ニ	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来緩和ケア管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・糖尿病透析予防指導管理料	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・婦人科特定疾患治療管理料	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・腎代替療法指導管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・外来放射線照射診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・連携充実加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料1	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・医療機器安全管理料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療機器安全管理料(歯科)	・胸腔鏡下弁形成術
・精神科退院時共同指導料1及び2	・胸腔鏡下弁置換術
・歯科治療時医療管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算	・経皮的僧帽弁クリップ術
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・遺伝学的検査	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・骨髄微小残存病変量測定	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・BRCA1/2遺伝子検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・がんゲノムプロファイリング検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・先天性代謝異常症検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)

・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・経皮的下肢動脈形成術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・神経学的検査	・腹腔鏡下肝切除術
・補聴器適合検査	・移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体部分肝移植術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・同種死体肝移植術
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・体外衝撃波砕石破碎術
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・歯科画像診断管理加算1	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・歯科画像診断管理加算2	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・ポジトロン断層撮影	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・冠動脈CT撮影加算	・同種死体腎移植術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・生体腎移植術
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳房MRI撮影加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・体外式膜型人工肺管理料
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・がん患者リハビリテーション料	・輸血管管理料Ⅱ
・リンパ浮腫複合的治療料	・コーディネート体制充実加算
・療養生活環境整備指導加算	・自己生体組織接着剤作成術
・療養生活継続支援加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・救急患者精神科継続支援料	・麻酔管理料(Ⅰ)

・認知療法・認知行動療法1	・麻酔管理料(Ⅱ)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・周術期薬剤管理加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・放射線治療専任加算
・医療保護入院等診療料	・外来放射線治療加算
・多血小板血漿処置	・高エネルギー放射線治療
・人工腎臓	・一回線量増加加算
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・強度変調放射線治療(IMRT)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・定位放射線治療
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・保険医療機関間の連携による病理診断
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・センチネルリンパ節加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・皮膚移植術(死体)	・デジタル病理画像による病理診断
・自家脂肪注入	・病理診断管理加算2
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・椎間板内酵素注入療法	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	17
	剖検率(%)	3.2

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ナノ粒子を用いた、癌原発巣-転移巣CT検出と、放射線遠達効果による転移巣の治療法	原田 聡	放射線医学講座	780,000	補 委 文部科学省
行動変容プロセス評価と検証による生活習慣病重症化予防のための多因子治療の探索	旭 浩一	内科学講座腎・高血圧内科分野	910,000	補 委 文部科学省
TGF-βシグナルの調節機構に基づいた進行肝癌のオーダーメイド化学療法の開発	王 挺	口腔医学講座関連医学分野	910,000	補 委 文部科学省
VEGFR-3陽性単球系細胞を指標とした間質性肺炎の新規マーカーの開発と病態解明	山下 雅大	呼吸器内科分野内科学講座	390,000	補 委 文部科学省
多系統萎縮症の脳内αシヌクレイン異常凝集に対する腸内細菌叢の関与の解明	前田 哲也	内科学講座脳神経内科・老年科分野	39,000	補 委 文部科学省
高齢者筋層浸潤性膀胱癌に対するMMC+UFTを用いた化学放射線療法の臨床研究	有賀 久哲	放射線腫瘍学科	1,040,000	補 委 文部科学省
転移性肝腫瘍に対する人工知能(AI)を用いた治療効果予測の確立	田村 明生	放射線医学講座	780,000	補 委 文部科学省
超高磁場MRIを用いた脳脊髄液動態評価による病態診断法の開発	藤原 俊朗	脳神経外科学講座	780,000	補 委 文部科学省
炎症性腸疾患の新規バイオマーカーLRGの実臨床への応用	藤本 穰	内科学講座膠原病・アレルギー内科分野	1,560,000	補 委 文部科学省
超音波減衰量イメージングとエラストグラフィによるNASHの非侵襲的診断法の確立	黒田 英克	内科学講座消化器内科肝臓分野	650,000	補 委 文部科学省
急性肝不全救命に向けた成熟肝細胞の至適増殖環境の解明	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,040,000	補 委 文部科学省
左心耳における脳塞栓発生の危険因子同定と閉鎖術の術前治療計画システムの開発・検証	森野 禎浩	内科学講座循環器内科分野	1,040,000	補 委 文部科学省

CMTM遺伝子群による変異EGFR陽性肺癌の分子基盤と治療戦略への展開	前門戸 任	呼吸器内科分野内科学講座	520,000	補 委 文部科学省
血小板産生と機能獲得におけるAutophagyの役割の解明	古和田 周吾	内科学講座血液腫瘍内科分野	1,430,000	補 委 文部科学省
感温性磁性体を用いた癌の低侵襲的温熱療法の研究	齊藤 元	呼吸器外科学講座	780,000	補 委 文部科学省
Helicobacter pylori免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響	肥田 圭介	医療安全学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
Circulating tumor DNA検査の臨床導入における課題点の克服	遠藤 史隆	臨床腫瘍学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
脳動脈血行再建術後過灌流による認知機能障害の分子生物学的メカニズムの解明	千田 光平	脳神経外科学講座	910,000	補 委 文部科学省
卵巣明細胞癌に対するNEFHを標的とした新規治療法の開発	板持 広明	臨床腫瘍学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
脳内出血における大脳皮質神経受容体結合能およびアミノ酸代謝の変化と嚥下障害の関連	小守林 靖一	岩手県高度救命救急センター	1,170,000	補 委 文部科学省
咀嚼機能障害に対する機能回復が脳機能および認知機能に及ぼす影響の検討	小林 琢也	補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野	780,000	補 委 文部科学省
DPC情報と電子カルテ情報を用いた脳卒中登録システム整備に関する研究	大間々 真一	救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野	1,170,000	補 委 文部科学省
高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム	馬場 誠朗	外科学講座	325,000	補 委 文部科学省
DPP-4阻害薬の臨床効果とBDNF遺伝子多型との関連	高橋 義彦	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	520,000	補 委 文部科学省
地域精神医療保健におけるハイリスク者ケアに関する包括的な教育モデルの構築	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省

膠芽腫におけるグリオーマ幹細胞の高分布領域の同定に関する研究	別府 高明	脳神経外科学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
光干渉断層法イメージングを応用した新しい冠動脈石灰化モデルの作成と治療機器の開発	石田 大	内科学講座循環器内科分野	1,170,000	補 委 文部科学省
フォンタン関連肝障害の新しい生体指標とフォンタン循環特性との関連	齋木 宏文	小児科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省
ctDNAを用いた新規大腸癌サーベイランス法の開発	大塚 幸喜	外科学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
消化器癌における症例特異的変異を用いたctDNAモニタリングの臨床的意義の検討	岩谷 岳	臨床腫瘍学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
既往脳卒中症状再燃に対する感染症の関連と脳拡散テンソル画像による病変可視化の試み	赤松 洋祐	脳神経外科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
筋層非浸潤性膀胱癌におけるBCG膀胱内注入療法感受性プロファイル探索研究	加藤 陽一郎	泌尿器科学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
3D超音波画像診断装置を用いた胎児後頸部透亮域体積計測による胎児染色体疾患の評価	福島 明宗	臨床遺伝学科	260,000	補 委 文部科学省
間葉系幹細胞の抗炎症性免疫細胞誘導能を応用した変形性顎関節症新規治療戦略の確立	間山 寿代	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	1,170,000	補 委 文部科学省
人工知能(AI)を用いた過疎地域における口腔粘膜疾患の遠隔診療支援システムの開発	大橋 祐生	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	390,000	補 委 文部科学省
身近に潜む脅威「界面活性剤」～陽イオン界面活性剤中毒の科学的解明～	藤田 友嗣	救急・災害・総合医学講座救急医学分野	962,000	補 委 文部科学省
高齢者の身体活動意欲向上に対する活動量計の効果検証と推進プログラムの開発	下沖 収	救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野	780,000	補 委 文部科学省
損傷形態と機能に着目した3Dイメージングによる半月板損傷の新たな治療	田島 吾郎	整形外科科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省

高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序	佐々木 章	外科学講座	1,105,000	補 委 文部科学省
人工知能装備型自動呼吸機能検査システム(オートスパイロ)の開発	諏訪部 章	臨床検査医学講座	390,000	補 委 文部科学省
子どもの先天性難聴の遺伝学的検査の意味:親の視点からどう捉えられているか	山本 佳世乃	臨床遺伝学科	910,000	補 委 文部科学省
腺窩上皮型胃癌における臨床病理学のおよび網羅的分子解析	上杉 憲幸	病理診断学講座	1,950,000	補 委 文部科学省
Adamkiewicz動脈の画像診断支援システムの開発	吉岡 邦浩	放射線医学講座	2,080,000	補 委 文部科学省
ロボットPCIにおける安全性・IVUSガイドの有効性・遠隔手術実現性の検証	肥田 頼彦	内科学講座循環器内科分野	1,170,000	補 委 文部科学省
ストレスに伴うアトピー性皮膚炎の増悪機構と制御に関する研究	天野 博雄	皮膚科学講座	2,080,000	補 委 文部科学省
褐色/ベージュ脂肪細胞の活性化機構の解明と肥満・糖尿病治療への応用	長谷川 豊	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	2,340,000	補 委 文部科学省
脳主幹動脈閉塞病変による慢性脳虚血における脳温度上昇と脳脊髄液動態との関連の解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
脳梗塞慢性期における血行再建術後のアミロイド排出と大脳白質微細構造変化の関係	小林 正和	脳神経外科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
高解像度7T-MRIによる未破裂脳動脈瘤壁厚評価法の確立	幸治 孝裕	脳神経外科学講座	1,820,000	補 委 文部科学省
上部尿路上皮癌術後経過における血中・尿中ctDNA変異遺伝子モニタリング	小原 航	泌尿器科学講座	2,600,000	補 委 文部科学省
前立腺癌発症関連SNPを有するZMIZ1遺伝子による前立腺癌発症機序の解明	高田 亮	泌尿器科学講座	1,690,000	補 委 文部科学省

子宮体部漿液性癌の治療抵抗性を克服する腫瘍-宿主統合的治療法の探索	馬場 長	産婦人科学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
水晶体上皮細胞の上皮間葉系移行における細胞内シグナル伝達機構の解析	黒坂 大次郎	眼科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
リン酸八カルシウム・コラーゲン複合体と自家骨とによる広範囲顎骨再建法の確立	川井 忠	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	1,560,000	補 委 文部科学省
創傷治癒促進因子と熱応答性ナノバイオマテリアルを応用した低侵襲な組織再生療法	近藤 尚知	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	2,080,000	補 委 文部科学省
補綴装置製作における口腔内スキャナーを用いた正しい咬合採得方法を探る	田邊 憲昌	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,300,000	補 委 文部科学省
放射線性顎骨壊死に対する薬剤を用いた新規保存的治療の実験的研究	宮本 郁也	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	260,000	補 委 文部科学省
口腔マイコプラズマのヒト口腔粘膜上皮ゲノム変異因子としての可能性	齋藤 勇起	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	1,820,000	補 委 文部科学省
うま味受容体が俯瞰するエネルギー代謝制御による肥満予防を目指した分子基盤の確立	森川 和政	口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野	1,170,000	補 委 文部科学省
特別支援学校における嚥下機能と食提供の"ミスマッチ"をなくす取り組み	熊谷 美保	口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野	936,000	補 委 文部科学省
リンパ節内圧測定によるリンパ節転移超早期診断とリンパ行性薬剤導入システム治療	志賀 清人	頭頸部外科学科	780,000	補 委 文部科学省
筋電図パワースペクトル解析を用いた前十字靭帯再建者の大腿四頭筋筋線維組成の検討	西村 行秀	リハビリテーション医学科	520,000	補 委 文部科学省
腎癌の治療標的となりうる新規癌特異分子PRELID2の機能解析	加藤 廉平	泌尿器科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
歯周炎関連全身疾患としての2型糖尿病とその病態形成メカニズムの解析	中里 茉那美	歯科保存学講座歯周療法学分野	1,040,000	補 委 文部科学省

間葉系幹細胞の免疫制御機構を応用した新たな難治性顎骨壊死根治療法樹立の試み	小松 祐子	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	910,000	補委 文部科学省
周術期患者における口腔Candida菌が口腔粘膜炎に及ぼす影響についての検討	佐藤 俊郎	口腔医学講座予防歯科学分野	650,000	補委 文部科学省
Ultrasound pseudo-WSSによる新たな頸動脈プラーク診断法の確立	及川 公樹	脳神経外科学講座	910,000	補委 文部科学省
拡散尖度画像を用いた産後うつ病の脳内変化の解明と、新たな診断手法としての応用	川村 花恵	産婦人科学講座	1,040,000	補委 文部科学省
次世代シーケンサーとデジタルPCRを用いた、肝細胞癌治療モニタリング法の開発	鈴木 彰子	内科学講座消化器内科肝臓分野	2,080,000	補委 文部科学省
胚盤胞補完法を用いた移植可能な肝臓作製技術の開発	鈴木 悠地	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,820,000	補委 文部科学省
陰茎癌における発癌メカニズムおよびヒトパピローマウイルスの関連の解明	前川 滋克	泌尿器科学講座	2,860,000	補委 文部科学省
卵巣癌におけるLSRを介してプラチナ耐性の機序解明と新規治療開発	船内 雅史	内科学講座膠原病・アレルギー内科分野	1,950,000	補委 文部科学省
表情解析ソフトウェアを用いた自己音声再建による新規代用音声の開発	東 修智	形成外科学講座	130,000	補委 文部科学省
抗炎症性マクロファージと間葉系幹細胞を併用した歯周病関連アテローム硬化症治療戦略	滝沢 尚希	歯科保存学講座歯周療法学分野	910,000	補委 文部科学省
材料学的及び生物学的因子によるインプラント周囲炎の病態機序の解明と治療法の模索	菅原 志帆	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,690,000	補委 文部科学省
IADL評価の乖離とMCIの予後に関する前向き観察研究	赤坂 博	内科学講座脳神経内科・老年科分野	2,340,000	補委 文部科学省
大腸粘膜下層浸潤癌におけるmicro RNA網羅的解析	永塚 真	内科学講座消化器内科消化管分野	3,900,000	補委 文部科学省

ctDNA検査を用いた食道癌の免疫チェックポイント阻害剤の適正使用の検討	二階 春香	外科学講座	1,820,000	補 委	文部科学省
前立腺癌画像誘導放射線治療における低侵襲マーカーの開発	瀬川 昂史	放射線腫瘍学科	1,690,000	補 委	文部科学省
悪性黒色腫における高生存依存性遺伝子群の交絡研究	荒川 伸之	皮膚科学講座	2,340,000	補 委	文部科学省
Radiomicsを用いた血行再建術後上下肢運動機能改善予測法の開発	佐藤 慎平	脳神経外科学講座	2,470,000	補 委	文部科学省
子宮内膜症関連卵巣癌における分離癌腺管及び腫瘍間質のmicroRNA発現解析研究	佐藤 千絵	産婦人科学講座	2,730,000	補 委	文部科学省
歯根形成関連因子Chd3の応用によるインプラント周囲への歯周組織類似構造の獲得	野尻 俊樹	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	2,210,000	補 委	文部科学省
自家架橋したヒアルロン酸に成長因子を配合した生体材料の創製と治療効果の基礎的評価	島山 航	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	3,250,000	補 委	文部科学省
骨再生効果を増強した組み替え成長因子による低侵襲性骨再生方法の開発	菊池 恵美子	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	1,690,000	補 委	文部科学省
東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究	八木 淳子	神経精神科学講座	1,690,000	補 委	文部科学省
長寿科学政策研究事業	西村 行秀	リハビリテーション医学講座	3,046,000	補 委	厚生労働省
岩手県における下部消化管出血症例に対する抗血栓薬の影響に関する検討	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化管分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における急性肝障害例の成因解明と重症化要因の解析	滝川 康裕	内科学講座 消化器内科肝臓分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県民の心不全の発症率と特徴およびそれに寄与する因子に関する検討	旭 浩一	内科学講座 腎・高血圧内科分野	1,000,000	補 委	岩手県

レセプトを用いた気管支喘息患者の抽出とポリジェニックリスクスコアの応用	前門戸 任	内科学講座 呼吸器内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における脳神経疾患患者の自動車運転実態と運動機能、認知機能および生化学的マーカーに関する研究	前田 哲也	内科学講座 脳神経内科・老年科分野	1,000,000	補 委	岩手県
動脈硬化検査に基づいた診療科連携システムの検証	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
生分解性ポリマー薬物溶出ステント留置後に短期間の抗血小板剤 2 剤投与を受ける患者の臨床成績調査:岩手医科大学関連病院による多施設共同前向きレジストリー(継続)	森野 禎浩	内科学講座 循環器内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術後のリポミクス解析	佐々木 章	外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
Intravoxel incoherent motion MRIを用いた内臓剥離術後過灌流の術前予知	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
上肢手術の治療状況における多施設調査	土井田 稔	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における糖尿病性壊疽による足切断症例の検討	櫻庭 実	形成外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県産婦人科医療における高難度診断・治療技術格差改善を目的とした大学病院および県立病院連携の強化	馬場 長	産婦人科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における早産・低出生体重児における慢性腎臓病発症リスク因子の検討	赤坂 真奈美	小児科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における尋常性乾癬に関する多施設共同研究	天野 博雄	皮膚科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
タンパク発現解析による移植後腎機能予測関連因子の探索と多施設共同研究 ～岩手県の腎移植増進に向けた取り組み～	小原 航	泌尿器科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
コロナ禍での地域精神保健医療における事業の方法論構築	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,000,000	補 委	岩手県

肝腫瘍検出能を担保した人工知能応用低被ばく腹部CT撮影法の開発	吉岡 邦浩	放射線医学講座	1,000,000	補 委	岩手県
ビデオ喉頭鏡が当院Rapid Response Team(RRT)の緊急気道確保に与える影響について	鈴木 健二	麻酔学講座	1,000,000	補 委	岩手県
遠隔テレビ会議システムと遠隔病理診断システムを用いた全県にわたる病病連携体制の新たな活用 -岩手モデルの維持と更なる発展を目指して-	菅井 有	病理診断学講座	1,000,000	補 委	岩手県
新型コロナ肺炎の診断及び重症度評価におけるプレセプシンの有用性の検討	井上 義博	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	1,000,000	補 委	岩手県
二国間交流事業(中国との共同研究(NSFC))	長谷川 豊	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	1,425,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
産学官連携による新型コロナウイルス等対策研究開発事業	石川 健	小児科学講座	1,885,837	補 委	岩手県
青森県量子科学センター委託研究	小林 正和	脳神経外科学講座	3,199,612	補 委	青森県
嚥下障害者への安全な食提供に繋げる“トロミ度”検出機器開発補助事業	齊藤 桂子	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	2,000,000	補 委	公益財団法人JKA
革新的がん医療実用化研究事業	仲 哲治	内科学講座 膠原病・アレルギー内科分野	89,050,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				補 委	小計9件
				補 委	合計112件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Eizuka M, Toya Y, Miura M, et al.	内科学講座消化器内科分野	Endoscopic Removal of a Denture Lining Material Stuck in the Duodenum	Case Rep Gastroenterol. 2022 Mar(オンライン)	Case Report
2	Endo K, Kuroda H, Abe T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Two hepatectomy cases for initially unresectable hepatocellular carcinoma after achieving a radiological complete response to sequential therapy with lenvatinib and transcatheter arterial chemoembolization	Hepatol Res. 2021 Oct;51:1082-1086.	Case Report
3	Fujiwara Y, Suzuki K, Yusa K, et al.	内科学講座消化器内科分野	Evaluation of the Long-term Administration of Rifaximin for More than Three Years in the Treatment of Repeated and Recurrent Overt Hepatic Encephalopathy	Intern Med. 2021 Sep;60:1027-1033.	Original Article
4	Gonai T, Toya Y, Kawasaki K, et al.	内科学講座消化器内科分野	Risk factors of re-bleeding within a year in colonic diverticular bleeding patients	DEN open. 2021 Aug(オンライン)	Original Article
5	Hirai M, Toya Y, Kikuchi A, et al.	内科学講座消化器内科分野	Rare cause of lower gastrointestinal bleeding: Iliac aneurysm-colonic fistula after endovascular treatment	J Gastroenterol Hepatol. 2022 Mar;37:417.	Case Report
6	Kakisaka K, Sasaki A, Umemura A, et al.	内科学講座消化器内科分野	High frequency and long persistency of ballooning hepatocyte were associated with glucose intolerance in patients with severe obesity	Sci Rep. 2021 Jul(オンライン)	Original Article
7	Kakisaka K, Suzuki Y, Abe H, et al.	内科学講座消化器内科分野	Serum alpha-fetoprotein increases prior to fibrosis resolution in a patient with acute liver failure	Clin J Gastroenterol. 2021 Oct;14:1470-1475.	Original Article
8	Kakisaka K, Suzuki Y, Kowata S, et al.	内科学講座消化器内科分野	Acute Liver Injury Due to T-cell Infiltration into the Liver as an Initial Clinical Finding of Adult T-cell Leukemia/Lymphoma	Intern Med. 2021 Sep;60:2431-2436.	Case Report
9	Kawasaki K, Eizuka M, Torisu T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Unclassified serrated lesion of the colon observed by magnifying endoscopy	Gastrointest Endosc. 2021 Sep;94:659-660.	Case Report
10	Kawasaki K, Nakamura S, Eizuka M, et al.	内科学講座消化器内科分野	Is barium enema examination negligible for the management of colorectal cancer? Comparison with conventional colonoscopy and magnifying colonoscopy	Jpn J Radiol. 2021 Dec;39:1159-1167.	Original Article
11	Kawasaki K, Torisu T, Nagahata T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Role of barium enema examination for the diagnosis of submucosal invasion depth in T1 colorectal cancers	Cancer Imaging. 2021 Dec;21:66.	Original Article
12	Kuroda H, Abe T, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科分野	Contrast-Enhanced Ultrasonography-Based Hepatic Perfusion for Early Prediction of Prognosis in Acute Liver Failure	Hepatology. 2021 Jun;73:2455-2467.	Original Article
13	Kuroda H, Abe T, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科分野	Diagnostic accuracy of ultrasound-guided attenuation parameter as a noninvasive test for steatosis in non-alcoholic fatty liver disease	J Med Ultrason (2001). 2021 Oct;48:471-480.	Original Article
14	Kuroda H, Fujiwara Y, Abe T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Two-dimensional shear wave elastography and ultrasound-guided attenuation parameter for progressive non-alcoholic steatohepatitis	PLoS One. 2021 Apr(オンライン)	Original Article
15	Miyasaka A, Sato S, Masuda T, et al.	内科学講座消化器内科分野	A 55-Year-Old Japanese Man with Multiple Sclerosis Diagnosed with Disseminated Tuberculosis Identified by Liver Function Abnormalities: A Case Report	Am J Case Rep. 2021 Aug(オンライン)	Case Report
16	Miyasaka A, Yoshida Y, Murakami A, et al.	内科学講座消化器内科分野	Safety and efficacy of glecaprevir and pibrentasvir in north Tohoku Japanese patients with genotype 1/2 hepatitis C virus infection	Health Sci Rep. 2022 Jan(オンライン)	Original Article
17	Miyasaka A, Yoshida Y, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科分野	A Novel Standard for Hepatocellular Carcinoma Screening Intensity After Hepatitis C Elimination	Int J Gen Med. 2021 Nov(オンライン)	Original Article
18	Miyasaka A, Yoshida Y, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科分野	Health-related quality of life in patients with chronic hepatitis C treated with sofosbuvir-based treatment at 1-year post-sustained virological response	Qual Life Res. 2021 Dec;30:3501-3509.	Original Article
19	Sasaki T, Suzuki Y, Sato M.	内科学講座消化器内科分野	Hyperglycemic chorea	Oxf Med Case Reports. 2021 Dec(オンライン)	Case Report
20	Suzuki Y, Kakisaka K, Sato T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Tc-99m GSA scintigraphy within the first 3 days after admission as an early predictor of outcome in severe acute liver injury	Sci Rep. 2021 Jun(オンライン)	Original Article
21	Suzuki Y, Kakisaka K, Takikawa Y.	内科学講座消化器内科分野	Letter to the editor: Autoimmune hepatitis after COVID-19 vaccination: Need for population-based epidemiological study	Hepatology. 2022 Mar;75:759-760.	Letter
22	Suzuki Y, Suzuki A, Kakisaka K, et al.	内科学講座消化器内科分野	Acute liver failure precipitated by acute Budd-Chiari syndrome and complete portal vein thrombosis	Clin Case Rep. 2021 May(オンライン)	Case Report
23	Toya Y, Endo M, Akasaka R, et al.	内科学講座消化器内科分野	Prognostic nutritional index is an independent prognostic factor for older patients aged >= 85 years treated by gastric endoscopic submucosal dissection	BMC Gastroenterol. 2021 Aug(オンライン)	Original Article

24	Toya Y, Endo M, Matsumoto T.	内科学講座消化器内科分野	Revised diagnostic algorithm of magnifying endoscopy with crystal violet staining for non-ampullary duodenal epithelial tumors	Dig Endosc. 2022 Jan;34:245.	Letter
25	Toya Y, Endo M, Yamada S, et al.	内科学講座消化器内科分野	The mucin phenotype does not affect the endoscopic resection outcome of non-ampullary duodenal epithelial tumors	Endosc Int Open. 2021 Aug(オンライン)	Original Article
26	Toya Y, Endo M, Yamazato M, et al.	内科学講座消化器内科分野	Resectability of underwater endoscopic mucosal resection for duodenal tumor: A single-center, retrospective pilot study	J Gastroenterol Hepatol. 2021 Nov;36:3191-3195.	Original Article
27	Toya Y, Yamada S, Yanai S, et al.	内科学講座消化器内科分野	Gastrointestinal: Endoscopic removal of a migrating esophageal metallic stent	J Gastroenterol Hepatol. 2021 May;36:1151.	Case Report
28	Yanai S, Shinzaki S, Matsuoka K, et al.	内科学講座消化器内科分野	Leucine-Rich Alpha-2 Glycoprotein May Be Predictive of the Adalimumab Trough Level and Antidrug Antibody Development for Patients with Inflammatory Bowel Disease: A Sub-Analysis of the PLANET Study	Digestion. 2021 November;102:929-937.	Original Article
29	Yanai S, Toya Y, Sugai T, et al.	内科学講座消化器内科分野	Gastrointestinal Adverse Events Induced by Immune-Checkpoint Inhibitors	Digestion. 2021 November;102:965-973.	Letter
30	Matsushita Y, Hasegawa Y, Takebe N, et al.	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Serum C-X-C motif chemokine ligand 14 levels are associated with serum C-peptide and fatty liver index in type 2 diabetes mellitus patients	J Diabetes Investig. 2021 Jun;12:1042-1049.	Original Article
31	Takebe N, Tanno K, Ohmomo H, et al.	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Weight Gain After 20 Years of Age is Associated with Unfavorable Lifestyle and Increased Prevalence of Metabolic Disorders	Diabetes Metab Syndr Obes. 2021 May(オンライン)	Original Article
32	Kikuchi Y, Tanaka F, Nakamura M, et al.	内科学講座腎・高血圧内科分野	Utility of urinary albumin excretion as an index for stratifying the residual cardiovascular risk in patients undergoing antihypertensive agents treatment	J Hypertens. 2021 Dec;39:2431-2438.	Original Article
33	Fujiwara J, Orii M, Takagi H, et al.	内科学講座循環器内科分野	Aortic Elongation in Bicuspid Aortic Valve with Aortic Stenosis Assessed by Thin-Slice Electrocardiogram-Gated Computed Tomography	Int Heart J. 2022 Mar;63:319-326.	Original Article
34	Itoh T, Kanaya Y, Komuro K, et al.	内科学講座循環器内科分野	Kounis syndrome caused by protamine shock after coronary intervention: A case report	J Cardiol Cases. 2021 Jul(オンライン)	Case Report
35	Itoh T, Kimura T, Kudo A, et al.	内科学講座循環器内科分野	Clinical and procedure characteristics in patients treated with polytetrafluoroethylene-covered stents after coronary perforation: a CIRC-8U multicenter registry and literature review	Cardiovasc Interv Ther. 2021 Oct;36:418-428.	Original Article
36	Itoh T, Toda N, Yoshizawa M, et al.	内科学講座循環器内科分野	Impact of the Great East Japan Earthquake and Tsunami on the Incidence of Takotsubo Syndrome Using a Multicenter, Long-Term Regional Registry	Circ J. 2021 Sep;85:1834-1839.	Original Article
37	Morino Y.	内科学講座循環器内科分野	A contemporary review of clinical significances of percutaneous coronary intervention for chronic total occlusions, with some Japanese insights	Cardiovasc Interv Ther. 2021 Apr;36:145-157.	Review
38	Nakajima Y.	内科学講座循環器内科分野	Effectiveness and safety of transcatheter left atrial appendage closure	J Cardiol. 2022 Feb;79:186-193.	Review
39	Nasu T, Satoh M, Hachiya T, et al.	内科学講座循環器内科分野	A genome-wide association study for highly sensitive cardiac troponin T levels identified a novel genetic variation near a RBAK-ZNF890P locus in the Japanese general population	Int J Cardiol. 2021 Apr;329:186-191.	Original Article
40	Taguchi Y, Itoh T, Sasaki W, et al.	内科学講座循環器内科分野	Predictors of Irregular Protrusion After Everolimus-Eluting Stent Implantation in Patients with Stable Coronary Artery Disease	Int Heart J. 2022 Mar;63:210-216.	Original Article
41	Tosaka K, Ishida M, Tsuji K, et al.	内科学講座循環器内科分野	Prevalence, clinical characteristics, and impact of active cancer in patients with acute myocardial infarction: data from an all-comer registry	J Cardiol. 2021 Sep;78:193-200.	Original Article
42	Yoshizawa M, Itoh T, Morino Y, et al.	内科学講座循環器内科分野	Gender Differences in the Circadian and Seasonal Variations in Patients with Takotsubo Syndrome: A Multicenter Registry at Eight University Hospitals in East Japan	Intern Med. 2021 Sep;60:2749-2755.	Original Article
43	Sawa Y, Matsushita N, Sato S, et al.	内科学講座循環器内科分野	Chronic HDAC6 Activation Induces Atrial Fibrillation Through Atrial Electrical and Structural Remodeling in Transgenic Mice	Int Heart J. 2021 May;62(3):616-626.	Original Article
44	Tsuji K, Ishida M, Itoh T, et al.	内科学講座循環器内科分野	Incidence and natural history of coronary evagination after implanted biodegradable polymer sirolimus-eluting stent	European Heart Journal Open, 2022 Feb(オンライン)	Original Article
45	Ito T, Nagashima H, Akiyama M, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	Treatment with immune checkpoint inhibitors after EGFR-TKIs in EGFR-mutated lung cancer	Thorac Cancer. 2022 Feb;13:386-393.	Original Article
46	Yamashita M, Utsumi Y, Nagashima H, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	S100A9/CD163 expression profiles in classical monocytes as biomarkers to discriminate idiopathic pulmonary fibrosis from idiopathic nonspecific interstitial pneumonia	Sci Rep. 2021 Jun(オンライン)	Original Article
47	Murata O, Suzuki K, Takeuchi T, et al.	内科学講座膠原病・アレルギー内科分野	The Risk Factors of Exacerbation in Interstitial Pneumonia With Autoimmune Features: A Single-Center Observational Cohort Study	Rheumatol Ther. 2021 Dec;8:1693-1710.	Original Article
48	Ito S, Iwanaga M, Nosaka K, et al.	内科学講座血液腫瘍内科分野	Epidemiology of adult T-cell leukemia-lymphoma in Japan: An updated analysis, 2012-2013	Cancer Sci. 2021 Oct;112:4346-4354.	Original Article

49	Ito S, Sato T, Maeta T.	内科学講座血液腫瘍内科分野	Role and Therapeutic Targeting of SDF-1 α /CXCR4 Axis in Multiple Myeloma	Cancers (Basel). 2021 Apr;13:1793.	Review
50	Oi K, Shimizu M, Natori T, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Influence of PAR-1 in patients with non-valvular atrial fibrillation: The antiplatelet effect of dabigatran	Thromb Res. 2021 May;201:123-130.	Original Article
51	Oura K, Itabashi R, Omoto T, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Impact of Introducing the Pletaal Assist System on Drug Adherence in Outpatients with Ischaemic Stroke: A Pilot Study	Patient Prefer Adherence. 2021 Apr(オンライン)	Original Article
52	Oura K, Itabashi R, Yamaguchi Oura M, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Cross-sectional area of the vagus nerve on carotid duplex ultrasound and atrial fibrillation in acute stroke: A retrospective analysis	eNeurologicalSci. 2021 Nov(オンライン)	Original Article
53	Oura K, Taguchi K, Yamaguchi Oura M, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Takayasu's Arteritis with a Thrombosed Aneurysm on the Common Carotid Artery Causing Ischemic Stroke	Intern Med. 2022 Feb;61:425-428.	Case Report
54	Oura K, Yamaguchi Oura M, Itabashi R, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Vascular Imaging Techniques to Diagnose and Monitor Patients with Takayasu Arteritis: A Review of the Literature	Diagnostics (Basel). 2021 Oct(オンライン)	Review
55	Suzuki T, Natori T, Sasaki M, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Evaluating recanalization of relevant lenticulostriate arteries in acute ischemic stroke using high-resolution MRA at 7T	Int J Stroke. 2021 Dec;16:1039-1046.	Original Article
56	Takahashi K, Iwaoka K, Takahashi K, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Cerebrospinal fluid levels of oxidative stress measured using diacron-reactive oxygen metabolites and biological antioxidant potential in patients with Parkinson's disease and progressive supranuclear palsy	Neurosci Lett. 2021 Jul;757:135975.	Original Article
57	Takahashi K, Nishiwaki H, Ito M, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Altered gut microbiota in Parkinson's disease patients with motor complications	Parkinsonism Relat Disord. 2022 Feb;95:11-17.	Original Article
58	Yoshida M, Ishizuka N, Mizuno M, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Rare presentation of tuberculous hypertrophic pachymeningitis diagnosed by a biopsy of abdominal lymphadenopathy	SAGE Open Med Case Rep. 2022 Mar(オンライン)	Case Report
59	Baba S, Akiyama Y, Endo F, et al.	外科学講座	Laparoscopic distal pancreatectomy for metastatic melanoma originating from the choroidal membrane: a case report	Surg Case Rep. 2021 Dec(オンライン)	Case Report
60	Fujisawa R, Iwaya T, Endo F, et al.	外科学講座	Early dynamics of circulating tumor DNA predict chemotherapy responses for patients with esophageal cancer	Carcinogenesis. 2021 Oct;42:1239-1249.	Original Article
61	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Pure Laparoscopic Donor Hepatectomy: Right Posterior Section Graft	J Gastrointest Surg. 2021 Oct;25:2718-2719.	Original Article
62	Iwaya T, Nishizuka Satoshi S.	外科学講座	Circulating Tumor DNA Detection Using Digital Polymerase Chain Reaction-Promising But Needs Improvement Reply	Gastroenterology. 2021 Jul;161:367-368.	Letter
63	Nikai H, Sasaki A, Umemura A, et al.	外科学講座	Predictive scoring system for advanced liver fibrosis in Japanese patients with severe obesity	Surg Today. 2021 Sep;51:1513-1520.	Original Article
64	Sasaki A, Umemura A, Ishida K, et al.	外科学講座	The Concept of Indeterminable NASH Induced by Preoperative Diet and Metabolic Surgery: Analyses of Histopathological and Clinical Features	Biomedicines. 2022 Feb(オンライン)	Original Article
65	Sasaki A, Yokote K, Naitoh T, et al.	外科学講座	Metabolic surgery in treatment of obese Japanese patients with type 2 diabetes: a joint consensus statement from the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, and the Japan Society for the Study of Obesity	Diabetol Int. 2021 Nov;13:1-30.	Original Article
66	Takahashi N, Nitta H, Umemura A, et al.	外科学講座	Pancreatic ductal adenocarcinoma in a patient with pancreas divisum and gastrointestinal duplication cyst: a case report	Surg Case Rep. 2021 Aug(オンライン)	Case Report
67	Tanahashi Y, Sato H, Kawakami A, et al.	外科学講座	Difference between delayed anastomosis and early anastomosis in damage control laparotomy affecting the infusion volume and NPWT output volume: is infusion restriction necessary in delayed anastomosis? A single-center retrospective analysis	Trauma Surg Acute Care Open. 2022 Mar(オンライン)	Original Article
68	Umemura A, Nitta H, Katagiri H, et al.	外科学講座	Single-Port Laparoscopic Duodenojejunostomy Employing Semi-Kocherization for a Young Female with Superior Mesenteric Artery Syndrome	Case Rep Gastroenterol. 2022 Mar;16:171-178	Case Report
69	Umemura A, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Central hepatic bisectionectomy with hepatic artery and biliary tracts reconstruction for the patient with nodular type intrahepatic hilar cholangiocarcinoma: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 May(オンライン)	Case Report
70	Umemura A, Suto T, Fujiwara H, et al.	外科学講座	Invention of novel scoring system for reduced port laparoscopic colorectal surgery to secure surgical safety and quality: A prospective clinical trial	Asian J Surg. 2021 Aug;44:1120-1122.	Original Article
71	Yaegashi M, Iwaya T, Sasaki N, et al.	外科学講座	Frequent post-operative monitoring of colorectal cancer using individualised ctDNA validated by multiregional molecular profiling	Br J Cancer. 2021 Apr;124:1556-1565.	Original Article
72	Yaegashi M, Otsuka K, Nakamura Y, et al.	外科学講座	Advanced synchronous rectal and prostate cancers diagnosed by lateral lymph node dissection: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Nov(オンライン)	Case Report
73	Igarashi S, Ando T, Takahashi T.	脳神経外科学講座	Development of cerebral microbleeds in patients with cerebral hyperperfusion following carotid endarterectomy and its relation to postoperative cognitive decline.	J Neurosurg. 2021 Oct;135:1122-1128.	Original Article

74	Akamatsu Y, Chaitin HJ, Hanafy KA.	脳神経外科学講座	Post-stroke recrudescence—a possible connection to autoimmunity?	Rev Neurosci. 2021 Aug;33:207–212.	Original Article
75	Chiba T, Fujiwara S, Oura K, et al.	脳神経外科学講座	Superb Microvascular Imaging Ultrasound for Cervical Carotid Artery Stenosis for Prediction of the Development of Microembolic Signals on Transcranial Doppler during Carotid Exposure in Endarterectomy	Cerebrovasc Dis Extra. 2021 May – August;11(2):61–68.	Original Article
76	Dobashi K, Kubo Y, Kimura K, et al.	脳神経外科学講座	De Novo Cerebral Microbleeds and Cognitive Decline in Cerebral Hyperperfusion After Direct Revascularization for Adult Moyamoya Disease	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Jan;31:106166.	Original Article
77	Kimura K, Kubo Y, Dobashi K, et al.	脳神経外科学講座	Angiographic, Cerebral Hemodynamic, and Cognitive Outcomes of Indirect Revascularization Surgery Alone for Adult Patients With Misery Perfusion due to Ischemic Moyamoya Disease	Neurosurgery. 2022 Jun;90:676–683.	Original Article
78	Kitakami K, Kubo Y, Yabuki M, et al.	脳神経外科学講座	Five-Year Outcomes of Medical Management Alone for Adult Patients with Ischemic Moyamoya Disease without Cerebral Misery Perfusion	Cerebrovasc Dis. 2022 March;51:158–164.	Original Article
79	Kobayashi M, Igarashi S, Takahashi T, et al.	脳神経外科学講座	Optimal timing for measuring cerebral blood flow after acetazolamide administration to detect preexisting cerebral hemodynamics and metabolism in patients with bilateral major cerebral artery steno-occlusive diseases: (15O) positron emission tomography studies	Am J Nucl Med Mol Imaging. 2021 Dec (オンライン)	Original Article
80	Koji T, Kubo Y, Matsumoto Y, et al.	脳神経外科学講座	Intracranial hemorrhage associated with direct oral anticoagulant after clipping for an unruptured cerebral aneurysm: A report of two cases	Surg Neurol Int. 2022 Mar (オンライン)	Case Report
81	Setta K, Beppu T, Sato Y, et al.	脳神経外科学講座	Primary Cranial Vault Lymphoma Extending between Subcutaneous Tissue and Brain Parenchyma without Skull Destruction after Mild Head Trauma: A Case Report and Literature Review	Case Rep Oncol. 2021 Jul (オンライン)	Case Report
82	Setta K, Matsuda T, Sasaki M, et al.	脳神経外科学講座	Diagnostic Accuracy of Screening Arterial Spin-Labeling MRI Using Hadamard Encoding for the Detection of Reduced CBF in Adult Patients with Ischemic Moyamoya Disease	AJNR Am J Neuroradiol. 2021 Aug;42:1403–1409.	Original Article
83	Tsutsui S, Matsuda T, Takeda K, et al.	脳神経外科学講座	Quantitative assessment of susceptibility artifacts produced by titanium alloy cerebral aneurysm clips on 7 tesla magnetic resonance images	岩手医学雑誌. 2021 Dec;73:215–226.	Original Article
84	Uchida S, Kubo Y, Oomori D, et al.	脳神経外科学講座	Long-Term Cognitive Changes after Revascularization Surgery in Adult Patients with Ischemic Moyamoya Disease	Cerebrovasc Dis Extra. 2021 September - December;11:145–154.	Original Article
85	Imamura Y, Kin H, Goto T, et al.	心臓血管外科学講座	Coronary artery bypass grafting for an anomalous origin of the right coronary artery: is it a valid surgical procedure?	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Jul;69:1125–1128.	Case Report
86	Tabayashi A, Imamura Y, Saito D, et al.	心臓血管外科学講座	Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm Repair Using Open Proximal Anastomosis Under Deep Hypothermic Circulatory Arrest	Ann Vasc Surg. 2021 Aug;75:534.e11–534.e14.	Case Report
87	Takinami G, Nakajima Y, Tsuji S, et al.	心臓血管外科学講座	The rare case of a MitraClip device migrating into the left ventricular apex	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Aug;69:1267–1270.	Case Report
88	Tsujii S, Ikai A, Oyama K, et al.	心臓血管外科学講座	Outcomes of primary sternal closure for postoperative mediastinitis in children	Eur J Cardiothorac Surg. 2021 May;59:951–957.	Original Article
89	Shigeeda W, Deguchi H, Tomoyasu M, et al.	呼吸器外科学講座	Utility of the powered stapler for radical pulmonary resection: a propensity score-matched analysis	Surg Today. 2021 Apr;51:582–588.	Original Article
90	Shigeeda W, Yoshimura R, Fujita Y, et al.	呼吸器外科学講座	Utility of mass spectrometry and artificial intelligence for differentiating primary lung adenocarcinoma and colorectal metastatic pulmonary tumor	Thorac Cancer. 2022 Jan;13:202–209.	Original Article
91	Yoshimura R, Deguchi H, Tomoyasu M, et al.	呼吸器外科学講座	Validation of completion lobectomy after wedge resection for <= 20 mm non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2021 Jul;13:4388–4395.	Original Article
92	Yoshimura R, Nishiyama M, Yanagawa N, et al.	呼吸器外科学講座	Low-grade fibromyxoid sarcoma arising from the lung: A case report	Thorac Cancer. 2021 Sep;12:2517–2520.	Case Report
93	Endo H, Murakami H, Yamabe D, et al.	整形外科科学講座	Comparison of Hybrid Posterior Fixation and Conventional Open Posterior Fixation Combined with Multilevel Lateral Lumbar Interbody Fusion for Adult Spinal Deformity	J Clin Med. 2022 Feb (オンライン)	Original Article
94	Kinno D, Murakami H, Endo H, et al.	整形外科科学講座	Gait analysis of patients with lumbar spinal stenosis using a wearable tri-axial acceleration sensor	岩手医学雑誌. 2021 Oct;73:177–188.	Original Article
95	Miya K, Nishimura Y, Tsuboi H, et al.	整形外科科学講座	Fatigue-related differences in erector spinae between adult spinal deformity patients and healthy individuals using surface electromyographic power spectral analysis	岩手医学雑誌. 2021 Aug;73:117–126.	Original Article
96	Okuda M, Sato K, Mimata Y, et al.	整形外科科学講座	Morphology of the Ulnar Insertion of the Triangular Fibrocartilage Complex and Related Osseous Landmarks	J Hand Surg Am. 2021 Jul (オンライン)	Original Article
97	Sato K, Mimata Y, Takahashi G, et al.	整形外科科学講座	Radiographic changes in the distal ulna in non-rheumatoid patients with extensor digitorum communis ruptures	Arch Orthop Trauma Surg. 2022 Feb;142:355–362.	Original Article
98	Wada S, Murakami H, Tajima G, et al.	整形外科科学講座	Analysis of characteristics required for gait evaluation of patients with knee osteoarthritis using a wireless accelerometer	Knee. 2021 Oct;32:37–45.	Original Article

99	Kagabu M, Nagasawa T, Tatsuki S, et al.	産婦人科学講座	Comparison of Postoperative Adjuvant Chemotherapy and Concurrent Chemoradiotherapy for FIGO2018 Stage IIIC1 Cervical Cancer: A Retrospective Study	Medicina (Kaunas). 2021 May;57:548.	Original Article
100	Shoji T, Enomoto T, Abe M, et al.	産婦人科学講座	Efficacy and safety of standard of care with/without bevacizumab for platinum-resistant ovarian/fallopian tube/peritoneal cancer previously treated with bevacizumab: The Japanese Gynecologic Oncology Group study JGOG2022	Cancer Sci. 2022 Jan;113:240-250.	Original Article
101	Shoji T, Sato C, Tomabechi H, et al.	産婦人科学講座	Expectations and Challenges of First-Line Maintenance Therapy for Advanced Ovarian Cancer	Medicina (Kaunas). 2021 May;57:501.	Review
102	Shoji T, Tatsuki S, Abe, M, et al.	産婦人科学講座	Novel Therapeutic Strategies for Refractory Ovarian Cancers: Clear Cell and Mucinous Carcinomas	Cancers (Basel). 2021 Dec;13:6120.	Review
103	Akasaka M, Kamei A, Tanifuji S, et al.	小児科学講座	GNAO1 mutation-related severe involuntary movements treated with gabapentin	Brain Dev. 2021 Apr;43:576-579.	Case Report
104	Saito K, Saiki H, Tsuchiya S, et al.	小児科学講座	Effect of Minocycline Pleurodesis in Infants With Refractory Chylothorax After Palliative Surgery for Complex Congenital Heart Disease	Cureus. 2022 Mar(オンライン)	Case Report
105	Sotodate G, Oyama K, Matsumoto A, et al.	小児科学講座	Predictive ability of neonatal illness severity scores for early death in extremely premature infants	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022 Mar;35:846-851.	Original Article
106	Sotodate G, Oyama K, Saiki H, et al.	小児科学講座	Early Ventricular Septal Defect Closure Prevents the Progression of Aortic Regurgitation: A Long-Term Follow-Up Study	Pediatr Cardiol. 2021 Oct;42:1607-1613.	Original Article
107	Yoshida T, Asakura Y, Miura S, et al.	小児科学講座	Streptococcal Toxic Shock Syndrome in a Child With Venous Malformation	Cureus. 2022 Jan(オンライン)	Case Report
108	Sugawara H, Miura S, Ishikawa K, et al.	小児科学講座	Family-centered shared decision-making in choosing modalities for renal replacement therapy in a pediatric patient with malignant disease	日児腎誌. 2021 Nov(オンライン)	Case Report
109	Katagiri K, Shiga K, Ikeda A, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	The Influence of Young Age on Difficulties in the Surgical Resection of Carotid Body Tumors	Cancers (Basel). 2021 Sep;13:4565.	Original Article
110	Katagiri K, Shiga K, Saito D, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	Preliminary Study of Chemoradiotherapy Using Modified Docetaxel, Cis-diaminodichloroplatinum, and 5-Fluorouracil for Sinonasal Squamous Cell Carcinoma	OTO Open. 2021 Sep(オンライン)	Original Article
111	Ninomiya C, Hiraumi H, Yonemoto K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	Effect of hearing aids on body balance function in non-reverberant condition: A posturographic study	PLoS One. 2021 Oct(オンライン)	Original Article
112	Oikawa SI, Shiga K, Katagiri K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	A case report of interdigitating dendritic cell sarcoma originating from the oropharynx	Clin Case Rep. 2021 Sep(オンライン)	Case Report
113	Saito D, Shiga K, Katagiri K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	Contrast-enhanced ultrasonography for the differential diagnosis of pleomorphic adenomas and Warthin tumors in salivary glands	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2021 May(オンライン)	Original Article
114	Shiga K, Katagiri K, Ikeda A, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	Challenges of Surgical Resection of Carotid Body Tumors - Multiple Feeding Arteries and Preoperative Embolization	Anticancer Res. 2022 Feb;42:645-652.	Review
115	Shiga K, Nibu K, Fujimoto, Y, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	Sites of invasion of cancer of the external auditory canal predicting oncologic outcomes	Head Neck. 2021 Oct;43:3097-3105.	Original Article
116	Arakawa N, Inoue T, Tanji T, et al.	皮膚科学講座	Development of arthralgia during treatment with dupilumab in a patient with atopic dermatitis	J Dermatol. 2021 Aug;48:e397-e398.	Letter
117	Hanada M, Nakagawa M, Hamabata A, et al.	皮膚科学講座	Lipid transfer protein syndrome due to wild grape juice and various vegetables: A life-threatening food allergen	J Dermatol. 2021 Sep;48:1439-1441.	Case Report
118	Miura S, Onishi M, Watabe D, et al.	皮膚科学講座	Conjunctival malignant melanoma treated successfully with BRAF inhibitor: encorafenib plus binimetinib	Dermatol Online J. 2022 Jan(オンライン)	Letter
119	Miura S, Watanabe A, Amano H.	皮膚科学講座	Lower limb ulcers due to an absent inferior vena cava	JAAD Case Rep. 2022 Jan(オンライン)	Case Report
120	Sato Y, Tsunoda K, Sugai, T, et al.	皮膚科学講座	Primary cutaneous adenoid cystic carcinoma of the skin with regional lymph node metastasis	Eur J Dermatol. 2021 Oct;31:647-649.	Case Report
121	Watabe D, Amano H.	皮膚科学講座	TNF- α inhibitor-induced paradoxical psoriasis and erythema nodosum in a patient with ankylosing spondylitis	Eur J Dermatol. 2021 Jun;31:412-413.	Case Report
122	Watabe D, Takeda K, Amano H.	皮膚科学講座	Tinea manuum caused by Trichophyton erinacei from a hedgehog	Eur J Dermatol. 2021 July-Aug;31:579-81	Case Report
123	Watanabe A, Tsunoda K, Watabe D, et al.	皮膚科学講座	Case report of meningeal carcinomatosis in advanced cutaneous apocrine carcinoma	J Dermatol. 2021 Oct;48:E504-E505.	Letter

124	Ikarashi D, Kitano S, Tsuyukubo T, et al.	泌尿器科学講座	Pretreatment tumour immune microenvironment predicts clinical response and prognosis of muscle-invasive bladder cancer in the neoadjuvant chemotherapy setting	Br J Cancer. 2022 Mar;126:606-614.	Original Article
125	Ikarashi D, Okimoto T, Shukuya T, et al.	泌尿器科学講座	Comparison of Tumor Microenvironments Between Primary Tumors and Brain Metastases in Patients With NSCLC	JTO Clin Res Rep. 2021 Sep(オンライン)	Original Article
126	Ishii S, Takata R, Kikuchi K, et al.	泌尿器科学講座	Association of radiation doses to individual part of periprostatic area in cases of iodine-125 prostate brachytherapy with erectile dysfunction	岩手医学雑誌. 2021 Oct;73:151-163.	Original Article
127	Kato R, Naito S, Numakura K, et al.	泌尿器科学講座	Significance of upfront cytoreductive nephrectomy stratified by IMDC risk for metastatic renal cell carcinoma in targeted therapy era - a multi-institutional retrospective study	Int J Clin Oncol. 2022 Mar;27:563-573.	Original Article
128	Kato Renpei, Kojima T, Sazuka T, et al.	泌尿器科学講座	A Multicentre Retrospective Study of Nivolumab Plus Ipilimumab for Untreated Metastatic Renal Cell Carcinoma	Anticancer Res. 2021 Dec;41:6199-6209.	Original Article
129	Kato Y, Ikarashi D, Kikuchi D, et al.	泌尿器科学講座	Dysuria therapeutic agents as an independent prognostic factor for the primary recurrence of non-muscle invasive bladder cancer: a propensity score matching study	J Int Med Res. 2021 Aug(オンライン)	Original Article
130	Takata R, Kanehira M, Kato Y, et al.	泌尿器科学講座	Improvement of three-dimensional motion sickness using a virtual reality simulator for robot-assisted surgery in undergraduate medical students: A prospective observational study	BMC Med Educ. 2021 Sep(オンライン)	Original Article
131	Shiomi E, Kato R, Matsuura T, et al.	泌尿器科学講座	Relationship between miR-155 expression and clear cell papillary renal cell carcinoma in the dialyzed kidney	IJU Case Rep. 2021 May(オンライン)	Case Report
132	Mukaida E, Tamura A, Nishiya M, et al.	放射線医学講座	A case of hepatic intraductal papillary neoplasm of the bile duct	BJR Case Rep. 2021 Nov(オンライン)	Case Report
133	Orii M, Sugawara T, Takagi H, et al.	放射線医学講座	Reliability of respiratory-triggered two-dimensional cine k-adaptive-t-autocalibrating reconstruction for Cartesian sampling for the assessment of biventricular volume and function in patients with repaired tetralogy of Fallot	Br J Radiol. 2021 Apr;94:20201249.	Original Article
134	Tamura A, Mukaida E, Ota Y, et al.	放射線医学講座	Superior objective and subjective image quality of deep learning reconstruction for low-dose abdominal CT imaging in comparison with model-based iterative reconstruction and filtered back projection	Br J Radiol. 2021 Jul;94:20201357.	Original Article
135	Yamaguchi S, Ieko Y, Ariga H, et al.	放射線医学講座	Characterization of an under-development capacitor dosimeter equipped with a silicon x-ray diode	Rev Sci Instrum. 2021 Dec;92:123101.	Original Article
136	Yamaguchi S, Sato E, Ieko Y, et al.	放射線医学講座	Development of a dose-rate dosimeter for x-ray CT scanner using silicon x-ray diode	Rev Sci Instrum. 2021 May;92:053103.	Original Article
137	Hatakeyama T, Hongo S, Kumagai M, et al.	麻酔学講座	Intraoperative increased plasma lactate concentration as a prognostic factor for liver transplant recipients: a retrospective cohort study	岩手医学雑誌. 2021 Apr;73:1-11.	Original Article
138	Kumagai M, Kurihara H, Ishida K, et al.	麻酔学講座	The Oxygen Reserve Index as a determinant of the necessary amount of postoperative supplemental oxygen	Minerva Anesthesiol. 2021 Apr;87:439-447.	Original Article
139	Wakimoto M, Suzuki K.	麻酔学講座	Predictors of changes in hemodynamics associated with general anesthesia in children with atrial septal defects: a retrospective cohort study	岩手医学雑誌. 2021 Jun;73:53-61.	Original Article
140	Takahashi G, Hoshikawa K, Kan S, et al.	救急・災害・総合医学講座救急医学分野	Auto-brewery syndrome caused by oral fungi and periodontal disease bacteria	Acute Med Surg. 2021 May(オンライン)	Case Report
141	Takahashi T, Tanaka F, Shimoda H, et al.	救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野	Five-year blood pressure trajectories of survivors of the tsunami following the Great East Japan Earthquake in Iwate	Hypertens Res. 2021 May;44:581-590.	Original Article
142	Suzuki R, Terayama M, Tanda M.	救急・災害・総合医学講座救急医学分野	Severe leptospirosis infection in a non-epidemic area	IDCases. 2021 Nov(オンライン)	Case Report
143	Hashimoto M, Uesugi N, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Expression Patterns of Microenvironmental Factors and Tenascin-C at the Invasive Front of Stage II and III Colorectal Cancer: Novel Tumor Prognostic Markers	Front Oncol. 2021 Aug(オンライン)	Original Article
144	Shioi Y, Osakabe M, Yanagawa N, et al.	病理診断学講座	Analysis of somatic copy number alterations in biliary tract carcinoma using a single nucleotide polymorphism array	Future Sci OA. 2021 Nov(オンライン)	Original Article
145	Sugai T, Osakabe M, Habano W, et al.	病理診断学講座	A genome-wide analysis of the molecular alterations occurring in the adenomatous and carcinomatous components of the same tumor based on the adenoma-carcinoma sequence	Pathol Int. 2021 Sep;71:582-593.	Original Article
146	Sugai T, Osakabe M, Niinuma T, et al.	病理診断学講座	Comprehensive analyses of microRNA and mRNA expression in colorectal serrated lesions and colorectal cancer with a microsatellite instability phenotype	Genes Chromosomes Cancer. 2022 Mar;61:161-171.	Original Article
147	Sugai T, Osakabe M, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	A genome-wide study of the relationship between chromosomal abnormalities and gene expression in colorectal tumors	Genes Chromosomes Cancer. 2021 Apr;60:250-262.	Original Article
148	Sugai T, Yamada N, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Microenvironmental markers are correlated with lymph node metastasis in invasive submucosal colorectal cancer	Histopathology. 2021 Oct;79:584-598.	Original Article

149	Sugimoto R, Endo M, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Immunohistochemical Analysis of Mismatch Repair Gene Proteins in Early Gastric Cancer Based on Microsatellite Status	Digestion. 2021 September;102:691-700.	Original Article
150	Uesugi N, Ajioka Y, Arai T, et al.	病理診断学講座	Clinicopathological and molecular analyses of hyperplastic lesions including microvesicular variant and goblet cell rich variant hyperplastic polyps and hyperplastic nodules-Hyperplastic nodule is an independent histological entity	Pathol Int. 2022 Feb;72:128-137.	Original Article
151	Yamada N, Eizuka M, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	Immunohistochemical Examination is Highly Sensitive and Specific for Detection of the V600E BRAF Mutation in Colorectal Serrated Lesions	Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2021 Jul;29:446-453.	Original Article
152	Yanagawa N, Nishiya M, Sato Y, et al.	病理診断学講座	Undifferentiated carcinoma arising from intracranial epidermoid cyst	Pathol Int. 2021 Apr;71:281-283.	Case Report
153	Yanagawa N, Suzuki M, Saito D, et al.	病理診断学講座	Coexistence of salivary duct, myoepithelial and epithelial-myoepithelial carcinomas in the parotid gland: a case report and literature review	J Surg Case Rep. 2021 Jun(オンライン)	Case Report
154	Yanagawa N, Suzuki M, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	SMARCB1-deficient sinonasal carcinoma: a case report and literature review	J Surg Case Rep. 2021 Apr(オンライン)	Case Report
155	Yanagawa N, Yamada N, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	The Frequency of DNA Mismatch Repair Deficiency Is Very Low in Surgically Resected Lung Carcinoma	Front Oncol. 2021 Oct(オンライン)	Original Article
156	Kizawa T, Hosokawa K, Nishijima T, et al.	睡眠医療学科	False-positive cases in multiple sleep latency test by accumulated sleep debt	Neuropsychopharmacol Rep. 2021 Jun(オンライン)	Original Article
157	Shimizu S, Sawada T, Asano A, et al.	歯科保存学講座う蝕治療学分野	Effects of different bonding systems with various polymerization modes and root canal region on the bond strength of core build-up resin composite	J Prosthodont Res. 2021 Oct;65:521-527.	Original Article
158	Aoki T, Yokota S, Chosa N, et al.	歯科保存学講座う蝕治療学分野	TGF- β abrogates the LPS-induced activation of the NF- κ B-mediated signaling pathway that suppresses osteogenic activity in human mesenchymal stem cells	岩手医科大学歯学雑誌. 2021 Jul(オンライン)	Original Article
159	Fukutoku A, Tanabe N, Kihara H, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Surface attrition of zirconia and hybrid composite resin superstructure during implant therapy	J Oral Sci. 2021 Jun;63:267-269.	Original Article
160	Hatakeyama W, Takafuji K, Kihara H, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	A review of the recent literature on maxillary overdenture with dental implants	J Oral Sci. 2021 Oct;63:301-305.	Review
161	Kihara H, Sugawara S, Yokota J, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Applications of three-dimensional printers in prosthetic dentistry	J Oral Sci. 2021 Jun;63:212-216.	Review
162	Nakasato A, Kobayashi T, Kubota M, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Increase in masseter muscle activity by newly fabricated complete dentures improved brain function	J Prosthodont Res. 2021 Oct;65:482-488.	Original Article
163	Oyamada Y, Yonezawa Y, Kondo H.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Simple Duplication Technique of Complete Denture Using an Intraoral Scanner	J Prosthodont. 2021 Jun;30:458-461.	Original Article
164	Sugawara S, Ishikawa T, Sato S, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Uptake of Nanotitanium by Gingival Epithelial Cells Promotes Inflammatory Response and Is Accelerated by Porphyromonas gingivalis Lipopolysaccharide: An In Vitro Study	Int J Mol Sci. 2021 Jul(オンライン)	Original Article
165	Hoshi M, Sawada T, Hatakeyama W, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Characterization of Five Collagenous Biomaterials by SEM Observations, TG-DTA, Collagenase Dissolution Tests and Subcutaneous Implantation Tests	Materials (Basel). 2022 Feb(オンライン)	Original Article
166	Hoshi I, Abe R, Onodera K, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Osteosarcoma of the Mandible in an Elderly Patient	Case Rep Dent. 2022 Mar(オンライン)	Case Report
167	Hoshi I, Kawai T, Kurosu S, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Custom-Made Titanium Mesh Tray for Mandibular Reconstruction Using an Electron Beam Melting System	Materials (Basel). 2021 Nov(オンライン)	Original Article
168	Komatsu Y, Kawai T, Chiba T, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	A case of canalicular adenoma with anemia	J Surg Case Rep. 2022 Feb(オンライン)	Case Report
169	Komatsu Y, Kawai T, Miura S, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Rhabdomyosarcoma in the maxillary gingiva of a child patient	J Surg Case Rep. 2021 Jul(オンライン)	Case Report
170	Kon M, Ishikawa T, Ohashi Y, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Epigallocatechin gallate stimulated histamine production and downregulated histamine H1 receptor in oral cancer cell lines expressing histidine decarboxylase	J Oral Biosci. 2022 Mar;64:120-130.	Original Article
171	Miyamoto I, Tanaka R, Kogi S, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Clinical Diagnostic Imaging Study of Osteoradionecrosis of the Jaw: A Retrospective Study	J Clin Med. 2021 Oct(オンライン)	Original Article
172	Ohashi Y, Shiga K, Katagiri K, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Evaluation and comparison of oral function after resection of cancer of the upper gingiva in patients who underwent reconstruction surgery versus those treated with a prosthesis	BMC Oral Health. 2021 Jul(オンライン)	Original Article
173	Takeda K, Miyamoto I, Abe R, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Tophaceous pseudogout of the temporomandibular joint extending into the cranium: a case report with literature review	J Surg Case Rep. 2022 Mar(オンライン)	Case Report

174	Tsunoda N, Kawai T, Obara M, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Analysis of effects and indications of cryosurgery for oral mucoceles	J Stomatol Oral Maxillofac Surg. 2021 Jun;122:267-272.	Original Article
175	Sato K, Miyamae Y, Kan M, et al.	口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野	Accelerated Idioventricular Rhythm Following Intraoral Local Anesthetic Injection During General Anesthesia	Anesth Prog. 2021 Dec;68:230-234.	Case Report
176	Ogawa K, Ishida Y, Kuwajima Y, et al.	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	Accuracy of a Method to Monitor Root Position Using a 3D Digital Crown/Root Model during Orthodontic Treatments	Tomography. 2022 Feb;8:550-559.	Original Article
177	Inaba A, Harada H, Ikezaki S, et al.	口腔保健育成学講座小児歯科学障害者歯科学分野	LPA6-RhoA signals regulate junctional complexes for polarity and morphology establishment of maturation stage ameloblasts	J Oral Biosci. 2022 Mar;64:85-92.	Original Article
178	Chiba T, Kikuchi S, Omori S, et al.	口腔医学講座関連医学分野	Chronic constipation and acute urinary retention	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2022 Jan;34:e1-e2.	Letter
179	Wang T, Suzuki K, Chiba T, et al.	口腔医学講座関連医学分野	Supplementation with Branched-Chain Amino Acids Induces Unexpected Deleterious Effects on Astrocyte Survival and Intracellular Metabolism with or without Hyperammonemia: A Preliminary In Vitro Study	Int J Hepatol. 2021 Sep(オンライン)	Original Article
180	Chiba T.	口腔医学講座関連医学分野	Relationship between plasma free amino acid profiles and changes in Crohn's disease activity index after administration of an elemental diet in patients with Crohn's disease.	Medical Research Archives. 2021 Oct(オンライン)	Original Article
181	Wang T, Ishikawa T, Sasaki M, et al.	口腔医学講座関連医学分野	Oral and Gut Microbial Dysbiosis and Non-alcoholic Fatty Liver Disease: The Central Role of Porphyromonas gingivalis	Front Med (Lausanne). 2022 Mar(オンライン)	Review
182	Chiba T, Mori M, Ikenoue Y, et al.	口腔医学講座関連医学分野	Food and Celiac Disease Antibodies in Irritable bowel syndrome with predominant diarrhea.	Medical Research Archives. 2022 Mar(オンライン)	Original Article
183	Sato H, Yano A, Shimoyama Y, et al.	口腔医学講座予防歯科学分野	Associations of streptococci and fungi amounts in the oral cavity with nutritional and oral health status in institutionalized elders: a cross sectional study	BMC Oral Health. 2021 Nov(オンライン)	Original Article
184	Omoto T, Asaka J, Sakai T, et al.	薬剤部	Disproportionality Analysis of Safety Signals for a Wide Variety of Opioid-Related Adverse Events in Elderly Patients Using the Japanese Adverse Drug Event Report(JADER) Database	Biol. Pharm. Bull. 2021 May;44:627-634.	Original Article
185	Ujii H, Nihei S, Nishiya N, et al.	薬剤部	Switching from intravenous to oral tacrolimus reduces its blood concentration in paediatric cancer patients	Anticancer Res. 2021 May;41(5):2591-2596.	Original Article
186	Takahashi H, Asaka J, Tairabune T, et al.	薬剤部	Analysis of risk factors for skin disorders caused by anti-epidermal growth factor receptor antibody drugs and examination of methods for their avoidance	J Clin Pharm Ther. 2021 Oct;46:1404-1411.	Original Article
187	Nihei N, Asaka J, Takahashi H, et al.	薬剤部	Bevacizumab increases endothelin-1 production via forkhead box protein O1 in human glomerular microvascular endothelial	Int J Nephrol. 2021 Dec 6(オンライン)	Original Article

小計14件
計 187件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec(オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の審査事項、申請区分、開催日、審査方法、承認後の報告、記録の管理及び公開、申請書受付から審査結果までの流れ等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 学校法人岩手医科大学の職員等が行う産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理（マネジメント）することによって、大学及び職員等の社会的信用及び名誉の保持及び社会貢献の推進を図ることを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 研究倫理の歴史と被験者保護、プロトコルの作成について 医学部倫理委員会の倫理審査の現状、臨床試験の起案から実行まで、臨床研究の実施における各種手続きについて	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医学部卒後2年間の臨床研修を修了した者を対象に、認定医および専門医等資格取得のための修練を実施している。各領域(科)に定める修練期間が異なるが、概ね次の3通りのパターンを設けており、各々のライフプランに合わせた研修を行う。

各科の研修は、自院のほか院外(連携)認定施設においても行われ、専門医等取得に向け各領域の定められた症例(数)の臨床経験、論文の執筆・発表および学会参加等、種々の研修を積む。

- ① 臨床研修修了後、専門医取得に向けた専門研修を実施
(概ね、医学部卒後6年目以降に専門医を取得)
- ② 臨床研修中から社会人大学院へ進学し、博士号の取得と専門研修を並行して実施
(医学部卒後4年で博士号、6年目以降に専門医を取得)
- ③ 臨床研修修了後、社会人大学院へ進学と同時に専門研修を実施
(医学部卒後6年で博士号、6年目以降に専門医を取得)

研修プログラムの例として、内科専門研修プログラム(研修期間:3年間)における研修例は以下のとおりである。各領域(科)に定められた所定の研修を修了した後、認定医や専門医試験の合格を経て、その資格を取得することとなる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)						総合診療	救急	内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)				
		月1回~2回のプライマリケア当直(大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直)を行う												
	目標	基幹施設での研修												
2年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)						内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)						
		基幹施設での研修												
	目標	45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録												
3年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修												
		連携施設での研修												
	目標	70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験												

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	145 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松本 主之	消化管内科	教授	36年	
滝川 康裕	肝臓内科	教授	39年	
石垣 泰	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	28年	
旭 浩一	腎・高血圧内科	教授	29年	
森野 慎浩	循環器内科	教授	28年	
前門戸 任	呼吸器内科	教授	32年	
仲 哲治	膠原病内科	教授	34年	
伊藤 薫樹	血液腫瘍内科	教授	30年	
前田 哲也	脳神経内科・老年科	教授	28年	
佐々木 章	外科	教授	33年	
小笠原 邦昭	脳神経外科	教授	37年	
金 一	心臓血管外科	教授	26年	
齊藤 元	呼吸器外科	教授	33年	
土井田 稔	整形外科	教授	37年	
櫻庭 実	形成外科	教授	31年	
馬場 長	産婦人科	教授	23年	
赤坂 真奈美	小児科	教授	28年	
佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科	教授	32年	
志賀 清人	頭頸部外科	教授	39年	
黒坂 大次郎	眼科	教授	34年	
天野 博雄	皮膚科	教授	28年	
小原 航	泌尿器科	教授	24年	
大塚 耕太郎	精神神経科	教授	24年	
吉岡 邦浩	放射線診断科	教授	36年	
有賀 久哲	放射線治療科	教授	32年	
鈴木 健二	麻酔科	教授	36年	
井上 義博	救急科	教授	39年	
諏訪部 章	臨床検査科	教授	37年	
菅井 有	病理診断科	教授	37年	
西村 行秀	リハビリテーション科	教授	25年	
下沖 収	総合診療科	教授	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
日本災害医療ロジスティクス研修
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、eラーニングによる講義のみ実施しました。
- ・研修の期間・実施回数
令和3年9月1日（水）～令和3年9月30日（木）講義動画を配信
- ・研修の参加人数
受講者26名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 小笠原 邦昭
管理担当者氏名	病院事務部長 遠藤利明 及び 各所属総括課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は薬剤部記録管理室
		手術記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は各診療科外来
		看護記録	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		検査所見記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ等又は各診療科外来
		エックス線写真	診療記録保管室、放射線システムサーバ又は各診療科外来
		紹介状	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事職員課
		高度の医療の提供の実績	病院企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院企画課
		高度の医療の研修の実績	医師卒後臨床研修センター
		閲覧実績	病院企画課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院企画課
	規則第一條の十一第二項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部
第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部	

・紙又は電子媒体で管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部、薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室、医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	病院企画課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院企画課		

・紙又は電子媒体で管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 遠藤 利明
閲覧担当者氏名	病院事務部次長 影山 雄太 病院企画課総括課長 野中 尊史 病院総務課総括課長 山口 順之 医事課総括課長 小野寺 敬信 人事職員課総括課長 佐々木 寛人
閲覧の求めに応じる場所	・諸記録閲覧室
閲覧の手続の概要 ①諸記録閲覧にかかる案内文書を、病院正面玄関に掲示している。 ②諸記録閲覧の求めがあった場合は、諸記録閲覧室にて対応を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本理念 (2) 医療安全管理に関する基本的な考え方 (3) 医療安全管理における職員の責務 (4) 医療安全管理組織体制の確立 (5) 医療安全管理のための職員の教育・研修 (6) 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療事故等調査委員会の設置 (9) 患者相談窓口の設置 (10) 患者との情報共有 (11) 内部通報窓口の設置 (12) 医療安全に係る監査委員会 (13) 特定機能病院間の相互立入 (14) 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療提供 (15) 院内暴力への対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故、インシデント・アクシデント、手術オカレンス、死亡事例等の収集、原因調査、分析 2. 医療安全確保のための改善策の立案、職員への周知 3. 院内巡視等による改善策の実施状況の評価及び見直し 4. 医療安全管理のための研修会の企画、立案、実施 5. 医療安全に関する情報の職員への提供及び注意喚起 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 25 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合医療安全対策講習会（本開催1回、eラーニング公開） 医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修、診療用放射線の安全管理 2. 医療安全対策講習会（本開催1回、eラーニング公開） 対話文化の醸成…医療メディエーションとは 3. 医薬品・医療機器講習会（本開催1回、eラーニング公開） 医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会 4. 新入職員研修（全1回） 5. 新人看護職員研修（全2回） 6. 臨床研修医への研修会（全3回） 7. リスクマネージャー研修（全1回） 8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技（全6回） 9. 血液浄化装置基礎講習会（全2回） 10. 人工呼吸器基礎講習会（全2回） 11. 人工呼吸器危機回避講習会（人工呼吸器・AED）（全5回） 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 病院長、副院長、医療安全管理部長、医療安全管理部等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施
2. 電子カルテネットワークを用いた報告システムの運用
3. 総合医療安全対策会議及び緊急安全対策会議での事実確認及び組織的対応の実施
4. 総合医療安全対策会議及び医療安全推進委員会、医療安全管理部を通じた再発予防策の周知と徹底
5. 院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施
6. 事故等にかかる診療録、看護記録等の精査、指導
7. 東北厚生局、県央保健所、日本医療機能評価機構への適切な報告
8. 医療安全管理のための医療安全対策マニュアルの整備
9. 放射線・病理レポート未既読管理システムの導入、運用

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方 (2) 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本的事項 (3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 (4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針 (7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、病院長への報告 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図る。 (3) 院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。 (4) 月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(別添)</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の発生状況を把握するため、病院における感染症の発生動向の情報を共有し、院内感染の発生の予防及びまん延の防止を図る。 (2) 重大な院内感染が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、または発生したことが疑われる場合は地域の専門家等に相談が行われる体制の確保。 (3) 「院内感染対策の指針」に即した院内感染対策マニュアルの整備、及び見直し。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2021.5 総合医療安全対策会議「医薬品の安全管理について」（本開催1回、eラーニング公開）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品情報の一元管理：周知について 2. 医薬品の安全使用について（インスリンバイアル製剤/高濃度カリウム製剤、麻薬・毒薬・向精神薬・事故等の対応） 3. その他（医薬品の取り違え事例/eラーニングの必要な医薬品） <p>2022.2 医薬品安全使用のため研修会・医療機器安全使用のため研修会 （本開催1回、eラーニング公開）</p> <p>医療事故再発防止に向けた提言書「薬剤の誤投与に係る死亡事例分析」から</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 提言の内容（投与工程における確認の注意点等） 2) 事例（輸液ポンプの使用、処方時の誤り、与薬時の患者取り違え、医薬品の取り間違い、インスリン専用シリンジの使用等） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ 有・無 ）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた「業務チェック表」を各部署に配布し、チェックしたものを回収し確認している。その回収した「業務チェック表」を基に、医療安全管理部の薬剤師・看護師・医師および医薬品・栄養部会（薬剤師・看護師・医師など）で各部署を巡回し、指導を行っている。最終的に医薬品安全管理責任者が確認を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>【適応外使用医薬品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラステット錠 ・ 【院内製剤】 0.2%ミノサイクリン塩酸塩軟膏（以前使用歴があり、再承認） ・ ジャカビ錠 ・ エンタイビオ点滴静注 ・ 液状フェノール ・ リムパーザ錠 ・ ベネクレクスタ錠 ・ プレバイミス点滴静注 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全通知 <ul style="list-style-type: none"> ・ 造影剤使用後の授乳制限に関する医療安全対策マニュアルの改訂 ・ 健康食品・サプリメント、市販薬等の中止指示について ・ 手術前後におけるSGLT-2阻害薬の休薬について 2. 医薬品安全性通知 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスワクチンによる心筋関連事象について ・ フロリードゲル経口用2%とワーファリンの併用に関する注意（併用禁忌）について ・ アセリオ静注液1000mgバッグ（一般名：アセアミノフェン）の過量投与に関する注意喚起について 3. 医療安全情報通知 <ul style="list-style-type: none"> ・ メイロン静注250mL製剤の誤った処方 ・ セレネース注とサイレース静注の取り違えについて ・ 製剤量と成分量の間違い ・ 二層バッグ製剤（バッグ型キット製剤）の隔壁未開通事例について 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 188 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機器の新規導入時における研修 (計122回) 2. 特定機能病院における定期研修 (年2回) 3. 臨床研修医、新人看護師の研修 (各1回) 4. 医療機器安全使用のための講習会 (年9回) 5. e-learningを用いた研修 (年2回) 6. その他の研修 (診療科・部署毎) (52回) 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床工学技士による保守点検 (年1または年2回の院内保守：動作点検・消耗品交換等) 2. メーカーまたは委託専門業者による定期保守点検 (年1回程度の定期保守) 3. 保守付リース契約機器における専門業者による保守点検 (年1回の定期保守) 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不具合や安全性情報については、当該機器に関連する製造販売業者より、一元的かつ正確に情報収集を行い、得られた内容を集約し、関連する部署スタッフへ遅滞なく、情報の提供に努めている。 2. 医療機器の添付文章、取扱説明書や簡易操作手順書など、機器の安全使用・保守点検等に関する情報の整理および管理を実施。 3. 医療機器の不具合や健康被害等に関し情報収集に努め、病院管理者・医療安全管理部・医療機器安全管理責任者へ向けて、速やかに情報提供を行っている。 4. 院内で発生した不具合事象に関して、PMDA (医薬品・医療機器総合機構) へ報告書を提出 (3件)、そのうちの1件に関し、全台数自主回収、ソフトウェアのバージョンアップ対応となっている。 <p>事例①：人工呼吸器 (PB980) の使用中点検の際、本体サブモニター部がホワイトアウトしていることを発見。なお、換気動作に問題はなく維持されていた。</p> <p>事例②：人工呼吸器 (ファビアンHF0) 使用中、換気動作は維持されていたが、タッチパネルおよび、物理ボタンが全て効かない状態となった。(後日、自主回収通知)</p> <p>事例③：人工呼吸器 (サーボn)、新規納入されシステムテスト (使用前点検) を実施し、異常のないことを確認の後、患者へ装着した。その後、グラフィックモニター上の波形がおかしいため、別装置に入替えを実施。再度、システムテストを行うと『内部リクエラー (初期不良)』を認めた。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は副院長であり、医療安全管理部長及び医療安全推進委員会委員長を兼務して、各組織を統括している。また、医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者は医療安全推進委員会委員であり、同委員会での報告を医療安全管理責任者が受けることにより、その業務を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部医薬品情報管理室（DI室）において、厚労省、PMDA、日本医療機能評価機構、日本病院薬剤師会ホームページおよび製薬企業等から情報を収集し整理を行っている。また、医療安全管理部専従薬剤師と情報の共有を行っている。</p> <p>情報共有の周知方法としては、①定期的には「医薬品・医療機器等安全性情報」やDSU（医薬品安全対策情報）、医療安全管理部から「医薬品に関する院内インシデント報告」の配布、および薬剤部から「DIニュース」の発行配布。②緊急時の場合等には必要に応じ、医療安全管理部から「医療安全通知」および薬剤部からの「業務連絡」「医薬品安全性通知」の発行配布。③電子カルテに「医薬品関連情報」ページを開設し、職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認・適応外・禁忌（併用・疾患）等については調剤時の疑義照会や病棟薬剤師による把握に務めている。把握できたデータは、持参薬鑑別時のものを含めて、医薬品情報管理室（DI室）に集約し、集計後、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>また、処方医に対する確認や指導を行う手順については、①調剤時や病棟薬剤師ができるだけ疑義照会を行う。②DI室で集約検討後、医薬品安全管理責任者と協議の上、「医薬品安全情報」を作成し、文書にて全体への周知の他、該当診療科や担当医師へ報告を行っている。③状況に応じて、担当医師へ電子カルテや直接の報告を行い、検討を促すなどを行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属： 薬剤部（医薬品情報管理室） ， 職種 薬剤師 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <p>： 病状説明書・同意書を病院統一の様式に変更し、既存のもので変更等があれば随時対応している。新規申請については、診療情報管理室、医療安全管理部が連携し確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p>診療記録監査委員会にて監査基準に沿って確認し、不備がある場合は改善するよう指導している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（5）名、専任（5）名、兼任（7）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に係る会議資料及び議事録の作成等の事務 2. 事故等発生時の患者等への対応状況の要因分析と再発予防策の立案及び指導 3. 事故等の原因究明の実施状況等の要因分析と再発予防策の立案及び指導 4. 医療に関わる安全管理のための職員研修の企画・実施 5. 医療安全対策マニュアルの整備、職員への周知 6. 医療安全対策に関する職員への周知及び評価 7. 医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリング <ul style="list-style-type: none"> -院内巡視によるスタッフミーティングで提起された改善策の実施確認 -全手術におけるオカレンスのモニタリング -1次2次外来におけるCT読影レポートの見落とし防止策の実施と指導、他 8. 医薬品及び医療機器の安全使用に関する管理状況の確認及び必要な指導 9. 患者相談窓口の相談情報の把握及び相談体制への支援、医療安全管理への活用及び反映 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
 2. 高難度新規医療技術の申請内容の確認
 3. 評価委員会の意見を踏まえ、申請内容の可否を決定
 4. 定期的（退院後を含む）に手術記録・診療録等によって技術提供状況を確認
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 9 件）、及び許可件数（ 9 件）
※うち適応外使用医薬品 9 件
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
 2. 未承認新規医薬品等の申請内容の確認
 3. 評価委員会の意見も踏まえ、申請内容の可否を決定
 4. 定期的に診療録等の記載内容を確認

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 629 件 (入院 629 件、外来 82 件：計 711 件) ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 386 件 (レベル 3b、4a、4b) (※管理者が定める水準 (国立大学附属病院安全管理協議会で定めた影響度分類 3b 通常の経過では必要が無い処置又は治療が必要になったもの) の当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して医療安全管理部への報告実績。) ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理部、医療安全管理部長、副院長、病院長で全死亡症例の死亡前から死亡に至る過程の診療記録等を回覧し、妥当性を検証 2. 疑義が生じた場合は、当該部署に対して医療安全管理部が確認、更なる確認が必要な場合等は緊急安全対策会議を開催して確認、妥当性を検証 3. 必要な合併症・偶発症報告を推奨し、必要な再発防止策の策定や指導を行う。 それらの結果を病院長に報告すると共に、医療安全推進委員会で周知
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：関西医科大学附属病院) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：関西医科大学附属病院) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 関西医科大学附属病院 (書面でのやり取り) (助言 1※確認事項・質問事項) 関西医大では、職員研修は学内 HP 掲載動画と e ラーニングの 2 種類を受講していただいています。受講環境が整っていない場合もあり、e ラーニング一本にすることが難しいのですが、受講環境整備のために何か対応されたことがあれば教えていただきたいです。または、どうしても web での受講が難しい職員の対応などございましたら教えてください。 (実施 1※回答) 当院の職員研修は、集合開催と e ラーニングの 2 種類の受講方法で行っております。昨年度は新型コロナウイルスの影響で e ラーニングのみの受講方法でしたが、今年度は日本専門医機構へ共通講習申請を行った講習会のみ一部の職員 (医師) を対象に集合開催を行いました。受講環境整備については、e ラーニングでの動画視聴、テスト受験を電子カルテシステム上で行えるようにしており、電子カルテのログイン権限がある職員 (メディカルスタッフ) はいつでも動画視聴、テスト受験が出来る環境になっております。また、電子カルテのログイン権限がない職員 (事務員等) には、e ラーニング受講用のログイン権限の付与、DVD の貸出を行っております。 (助言 2※確認事項・質問事項) 助言 1 の回答に関して、自前の開発でしょうか？システムについて教えてください。 (実施 2※回答) 当院の e ラーニングシステムは業務委託先であるワールドビジネスセンター (株) のシステムを使

用しております。

(助言 3※確認事項・質問事項)

職員ごとに単位設定されている仕組みについてももう少し概要や運用について詳しく教えていただきたいです。

(実施 3※回答)

岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム実施要領に則り、職員毎の取得単位を設定しております。取得単位数は職種によって異なり、メディカルスタッフ（医師、薬剤師、看護師等）は4単位、その他のスタッフ（事務員等）は3単位となっております。講習会（各1単位）は、総合安全対策講習会、安全対策講習会、感染対策講習会、医薬品、医療機器の安全使用に関する講習会を毎年実施しており、その中から職種毎に設定された所得単位となるように受講頂いております。

(助言 4※確認事項・質問事項)

院内ラウンドを定期的実施されていますが、当院はコロナの関係で見合わせていました。コロナの中でもラウンドを継続するために工夫された点やコロナ前とコロナ後でラウンドで変更されたことなどがあれば教えていただきたいです。

(実施 4※回答)

コロナ感染者がいる部署はラウンドを控え、後日感染者が不在の際にラウンド項目をまとめて確認を行いました。2チームで2～3人の分かれ、確認項目は聞き取りしなくても目視で確認できる項目を入れてラウンドを行いました。

(助言 5※確認事項・質問事項)

改善策の検証について、「スタッフミーティング報告6ヶ月後に自己評価を提出する」とありますが、自己評価の様式があれば、どのような様式を使用されているか参考にさせていただきたいです。

(実施 5※回答)

スタッフミーティング報告書の下部に6か月ご評価の欄があり、RMに対策がきちんと継続されているか評価してもらいコメントを記入いただいている。後日、ラウンドで対策を実施できているか改めて確認している。

(助言 6※確認事項・質問事項)

当院は事故調査へ報告となった経験がないため、報告までに至るフローやマニュアルがあれば参考にしたいので、是非ともご提供いただきたいです。

(実施 6※回答)

提供した医療に起因する重大な有害事象が発生した場合、また、提供した医療が原因となり有害事象が発生したと考えられる場合（以下、「医療事故」という）には、直ちに病院長、医療事故の関係者が集まり、緊急安全対策会議を開催し、医療事故の原因、医療事故発生後の処置内容を確認し、病院としての見解をまとめています。病院の見解として、調査が必要と判断された場合には、「医療事故等調査委員会規程」に則り、附属病院に医療事故等調査委員会を設置しております。

(助言 7※確認事項・質問事項)

過敏症の既往歴の再使用は禁忌だが、やむを得ず必要となる場合があり、当院では個々の医師や診療科の判断で再使用しています。貴院では、これらの院内ルールが制定されていますでしょうか。また、リスク軽減対策として具体的な処方例を提示されましたら教えて下さい。

(実施 7※回答)

当院でも再使用の場合は各医師や診療科の判断となっている。

(助言 8※確認事項・質問事項)

当院では、薬剤師が持参薬情報を入力し、医師がそのデータを元に持参薬指示を出しています。しかし、1泊2日など短期の休日入院では、薬剤師による入力ができず、医師の口頭指示のみで診療録に実施記録が残らない事例が発生しています。貴院での運用について教えて下さい。

(実施 8※回答)

当院では、土日等の病棟薬剤師が不在時は医師が「持参薬指示」を入力し実施する運用となっています。場合によっては薬剤部へ依頼がある場合もありますが、依頼があってもすぐに入力することが困難な場合が多いことに加え、面談等ができないため情報が不十分である医薬品を回答する等の

対応となります。

(助言 9※確認事項・質問事項)

当院では、院内処方薬の返却薬をヒートシール薬だけでなく分包薬も自動分包機に戻して再利用しています。このため、院外からの持参薬が調剤棚に混入するインシデントが発生しています。貴院における返却薬の運用について教えて下さい。

(実施 9※回答)

現在は病棟から返却された一包化(分包薬)分やPTPシートの後発医薬品は原則再利用していません。特に、後発医薬品は、持参薬と一緒に返品されることも多く持参薬か院内処方薬か区別がつかないこと、似ているものが多く判別が難しくそれを判別するために多くの時間やコストをかけても100%正確にすることは難しいことから1シート時のみ再利用の対象としています。しかし当院でも返却に関しては多くの問題があり、今後は病棟からの返却も含めてルール作成する方向で薬剤部にて検討を進めています。

(助言 10※確認事項・質問事項)

術式による抗血栓薬の中止基準やヘパリン置換の適応基準および説明同意書を整備されていたらご教示下さい。

(実施 10※回答)

抗血栓薬の中止基準は、一部の手術や出血が懸念される検査などについてフローチャートを作成しているが明確なものは定めていない。またヘパリン置換の適応基準および説明同意書についても現在整備していない。

(助言 11※確認事項・質問事項)

医療機器安全管理責任者を補佐する役割(臨床工学技士)を設置されていないようですが研修記録、保守点検記録などの管理も含め責任者が実施されているのでしょうか。

(実施 11※回答)

実働に関しては、全て臨床工学技士が対応しております。医療機器安全管理責任者は、臨床工学部長を兼務しており、情報共有が容易な環境となっております。あくまでも当院の医療機器安全管理責任者の規程上では「補佐」という役職が明記されていないことから、このような回答(補佐するものは明記されていない)となっております。

(助言 12※確認事項・質問事項)

検査部門に設置されている機器や眼科外来に設置されている眼科用顕微鏡などの点検実施はどのように実施され、誰が把握されているのでしょうか。

(実施 12※回答)

検査部門や放射線部門といった、専門性の高い部署配置機器に関しては、年間保守契約が締結されているため、メーカーによる定期保守が実施されております。保守契約機器に関しては、事務部門と情報共有しており、臨床工学部にて保守点検実施記録を管理しております。(メーカーまたはディーラーより報告を受ける)また、保守契約を結んでいない機器(眼科検査機器など)に関しては、不具合時点検がメインとなりますが、ほぼメーカーに任せている状況となっております。保守実施後は、同様にメーカーまたはディーラーより、臨床工学部に報告書の提出を徹底するよう周知を行っております(作業報告書の提出が部署止まりとなることもあり、決して遵守されている訳ではありません=把握が100%にはなっていません)

(助言 13※確認事項・質問事項)

医療機器の取り扱い説明書、添付文書等はどこで管理されていますか?(医療機器安全管理責任者、臨床工学部、病棟部門に設置など)

(実施 13※回答)

臨床工学部(CEセンター=機器管理部門)で管理しております。各病棟では、電子カルテ上より機器管理システムを閲覧できる環境が構築されており、そこから取扱説明書や添付文書を確認することが可能となっております。

(助言 14※確認事項・質問事項)

研修の実施者(職種)は誰でしょうか?また研修対象者の選定はどのように実施されていますか。

(実施 14※回答)

研修実施者は、そのほとんどが臨床工学技士が担当しております。またコロナによる入館規制もあるため、メーカーから研修動画を提供して頂き、eラーニングによる研修を実施しております。対象者は、医療安全管理部にて選定して頂いておりますが、基本としては「当該装置に関わる全職種」を対象としております。

(助言 15※確認事項・質問事項)

医療費免除の判断について、支障の無い範囲で内容を教えてください。

(実施 15※回答)

医療費免除については、病院長の決裁のもと行われます。医療費免除に該当する事象が発生し、診療科で医療費免除の対応を行いたいと判断した場合は、「診療報酬請求減願」を診療科の責任者、担当者の連名で提出頂き、医事課、医療安全管理部長並びに医療安全管理部がアクシデント報告書から医療費減免に該当するのかが確認し、病院事務次長、病院事務部長、副院長、病院長の決裁を得て医療費免除を行います。診療科のみの判断で、医療費減免はできないルールとなっております。

(助言 16※確認事項・質問事項)

院内での撮影・録音・ブログへの発信についてマニュアルを整備されておられ、是非とも参考にしたいと思いますので、ご提供いただけませんか。

(実施 16※回答)

医療安全対策マニュアル・分冊 No1「安全管理体制」07 個人情報管理をご参照ください。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全管理部と医療福祉相談室、総合保安対策室と連携し週1回の会議において対応事例の共有と対策の検討を実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 総合医療安全対策講習会 (本開催1回、eラーニング公開)
医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修、診療用放射線の安全管理
2. 医療安全対策講習会 (本開催1回、eラーニング公開)
対話文化の醸成…医療メディエーションとは
3. 医薬品・医療機器講習会 (本開催1回、eラーニング公開)
医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会
4. 新入職員研修 (全1回)
5. 新人看護職員研修 (全2回)
6. 臨床研修医への研修会 (全3回)
7. リスクマネージャー研修 (全1回)
8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技 (全6回)
9. 血液浄化装置基礎講習会 (全2回)
10. 人工呼吸器基礎講習会 (全2回)
11. 人工呼吸器危機回避講習会 (人工呼吸器・AED) (全5回)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

日本医療機能評価機構「2021年度特定機能病院管理者研修（2021.12.8）」
【医療安全管理部長】
日本医療機能評価機構「2021年度特定機能病院管理者研修（2022.1.25）」
【医薬品安全管理責任者】
日本医療機能評価機構「2021年度特定機能病院管理者研修（2022.2.14）」
【医療機器安全管理責任者】
日本医療機能評価機構「2020年度特定機能病院管理者研修（2020.12.10）」
※2022.4.1～医療機器安全管理責任者交代
新任者は「2022年度特定機能病院管理者研修（2022.11.30）」を受講予定。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

病院機能評価（審査実施日 2020年8月26日～28日）

2020年度第1回医療安全に係る監査委員会（2020年9月9日開催）

2020年度第2回医療安全に係る監査委員会（2021年2月2日開催）

2021年度第1回医療安全に係る監査委員会（2021年9月1日開催）

2022年度第2回医療安全に係る監査委員会（2022年3月14日開催）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院機能評価で指摘された医療安全に関する評価項目については、課題としてあげられた点を改善すべく院内の体制整備等の取り組みを行った。また、監査委員会にて病院機能評価の受審結果を報告し改善に向けた取り組みを監査頂いた。監査委員会の監査内容については議事録を附属病院ホームページ上に公開している。

病院機能評価の最終的な審査結果は電子カルテ及び学内ウェブページに公開し、全職員が見れるようになっている。

・評価を踏まえ講じた措置

病院機能評価の指摘事項に対し、改善に向け院内の体制整備等の取り組みを行った。

(注) 記載時点の状況を記載すること

2021年度 感染対策講習会

	講習会	開催日・開催回数	内容・講師	参加数
全職員対象	1 総合安全対策講習会	2020年5月26日(水) 17:30~18:45 他eラーニング	総合安全対策講習会 医療安全管理部、感染制御部、薬剤部、CEセンター、放射線医学講座	2,729
	2 感染対策講習会	2021年8月17日(火) 17:00~18:00 他eラーニング	新型コロナウイルス感染症の現状 山形県立中央病院 感染症内科・感染対策部 阿部 修一 先生	2,594
	3 感染対策講習会	本開催 2021年12月6日(月) 17:30~18:30 録画開催 2021年12月17日(金)、22日(水) 他eラーニング	人畜共通感染症とその周辺 感染症コンサルタント、サクラ精機株式会社学術顧問 青木 眞 先生	2,044

7,367

	講習会	開催日	内容・講師	参加数
職種別・部署別対象	1 新人看護職員研修	2021年4月2日	オリエンテーション、PPE・マスク着脱、手洗い実習 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	83
	2 新人看護職員研修	2021年4月23日	新人看護職員 安全なケアの実践研修(感染対策) 感染制御部専従看護師 及川みどり	88
	3 看護補助者研修①	2021年4月20日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 嶋守一恵	12
	4 看護補助者研修(2年目以上)	2021年6月29日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 嶋守一恵	49
	5 栄養部内衛生勉強会①	録画上映	2020年度開催内容の録画上映	127
	6 栄養部内衛生勉強会②	録画上映	2020年度開催内容の録画上映	122
	7 看護補助者研修③	2021年10月13日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 嶋守一恵	2
	8 CV講習会	2021年10月13日	CV挿入時の感染対策 感染制御部専従看護師師長 近藤啓子	8
	9 PLN [*] 研修会①	2021年6月8日	事例検討 感染制御部専従看護師 及川みどり 嶋守一恵 近藤啓子	8
	10 PLN [*] 研修会②	2021年7月13日	手指衛生と手荒れ予防ケア、個人防護具の着脱方法 内丸MC感染制御部 感染認定看護師 栗山聡美	5
	11 PLN [*] 研修会③	2021年9月14日	環境清拭、鋭利な器材の管理と血液媒介感染防止 感染制御部専従主任看護師 嶋守一恵	5
	12 PLN [*] 研修会④	2021年11月9日	器材の洗浄・消毒・滅菌 感染制御部専従看護師 及川みどり	5
	13 PLN [*] 研修会⑤	2021年12月14日	検体採取の注意点と細菌結果の見方/抗菌薬の適正使用と看護師の役割 細菌検査室副技師長 山田友紀 / 感染制御部専従薬剤師 稲垣学人	9
	14 PLN [*] 研修会⑥	2022年1月11日	適切な患者配置、事例による感染対策の実践 感染制御部専従看護師師長 近藤啓子	5
	15 看護補助者研修④	2022年1月19日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 嶋守一恵	3

531

7,898

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師であること (2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること (3) 組織管理能力等の附属病院を運営する上で必要な資質及び能力を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 附属病院ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 附属病院ホームページに掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
祖父江 憲治	岩手医科大学	○	学長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
佐々木 真理	岩手医科大学		医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
三浦 廣行	岩手医科大学		歯学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
小笠原 邦昭	岩手医科大学		附属病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
鈴木 健二	岩手医科大学		学長が指名する医師である副院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
肥田 圭介	岩手医科大学		医療安全管理を担当する副院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
宮田 剛	岩手県立中央病院 病院長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
野原 勝	岩手県保健福祉部 部長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 議事の概要については、附属病院臨床部長会議にて通知を行う ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小笠原 邦昭	○	医師	病院長
鈴木 健二		医師	副院長
櫻庭 実		医師	副院長
馬場 長		医師	副院長
肥田 圭介		医師	副院長
森野 禎浩		医師	副院長
眞瀬 智彦		医師	救急センター長
工藤 賢三		薬剤師	薬剤部長
佐藤 悦子		看護師	看護部長
出口 育美		看護師	副看護部長
遠藤 利明		事務	病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
附属病院ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
附属病院長が有する附属病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限については、次の各号のとおり定めるものとする。
 - （1） 人事執行権限について 岩手医科大学附属病院規程
 - （2） 予算執行権限について 学校法人岩手医科大学事務専決規程
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
附属病院に、副院長を置く。
副院長は、附属病院長を補佐し、附属病院長に事故あるときは、あらかじめ附属病院長が指名した者がその職務を代理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2021年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）」を受講

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全管理部、総合医療安全対策会議、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じて、理事長又は附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法： 附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	守谷慶友病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
長谷川 頌	長谷川菜園法律事務所代表		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
奥寺 高秋	元特別養護老人ホーム・日赤鷺鳴荘園長		医療を受ける者 その他医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部監査室において、定期監査及び臨時監査を実施している

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法

附属病院ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 附属病院長に対し、附属病院の管理及び運営に関する事項の概要を、理事会に報告することを義務付け、職務の執行を管理している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 17 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>内部通報窓口の存在及び窓口の使用方法是、総合医療安全対策会議議事録及び医療安全推進委員会資料の表紙に記載して周知している。また、「医療安全専用の赤ポスト」を病院職員エリア3カ所に設置し環境を整えている。</p>